

長崎遊学 Zigzag 紀行

～スルーハイク・ドキュメンタリー～

「日本二十六聖人“長崎への道” & 旧長崎街道」

【松陰・六部・童財善子】もどき

実施結果貫^か（完）^ん歩^ぼ記録

2018(平成 30)年10月^{自 宅 発}6日(土)～11月^{自 宅 着}12日(月)

^{だいこう}大香ブランド^{ろうこん}老魂サブタイトルは、
『ちょうちんフットライト(footlights)大作戦』

(大 沼 ^{かおる}香)

本書は、実地踏査中の歩いている時に浮かんで来た諸々の雑念を少し整理して、自分の中のもう一人の自分（影）に対する報告書、自家撞着問答集です、遊び心をランダムに並べて書いたものです。あの世に持って行く自分史の一端です。

.....

この間における様々な出来事は山ほどありますが、本書は要点を記述したものです。また、本書中の国土地理院地形図を切り取った図の中の赤色、あるいは紫色の実線（太い実線）は、私が歩行持参（携行）したGPS機の軌跡（GPSトラックログ）です。

.....

なお、誤字脱字や日本語文法上の間違いが多数あるはずですが、本書は世に問うもの、広く配布するものではないので、考え方や過ちを指摘されても、批評・批判されても浅学菲才の私にとって、如何ともし難く詮無いことです、性格（性質）の投影故にこれを以って私の限界です。

可笑^{おか}しな処に気付いた場合は、読み手のお方が、その聡明な頭脳を以って、自由に解釈して貰えればいいし、想像力と創造力を逞しく発揮し、ご自分の世界へ反映して貰えればそれで結構でございます。

.....

日本二十六聖人および長崎街道については、数多くの紀行文や案内書や学術書が販売されており、浅薄な私の及ぶ処ではありません、よって、本書は私の体験を通したことに絞って、私の率直な目線で概要を記述しています。

本書の構成は大綱以下のとおり。

○ 本紀行の全体行程

○ 長崎遊学 Zigzag 紀行の「大香^{だいこう}ブランド老魂^{ろうこん}サブタイトル」設定理由 >

I __ 「日本二十六聖人“長崎への道”スルーハイク」実施結果の貫^か（完^ん）歩^ほ記録

II __ 「長崎市界限周遊散策」実施結果の記録

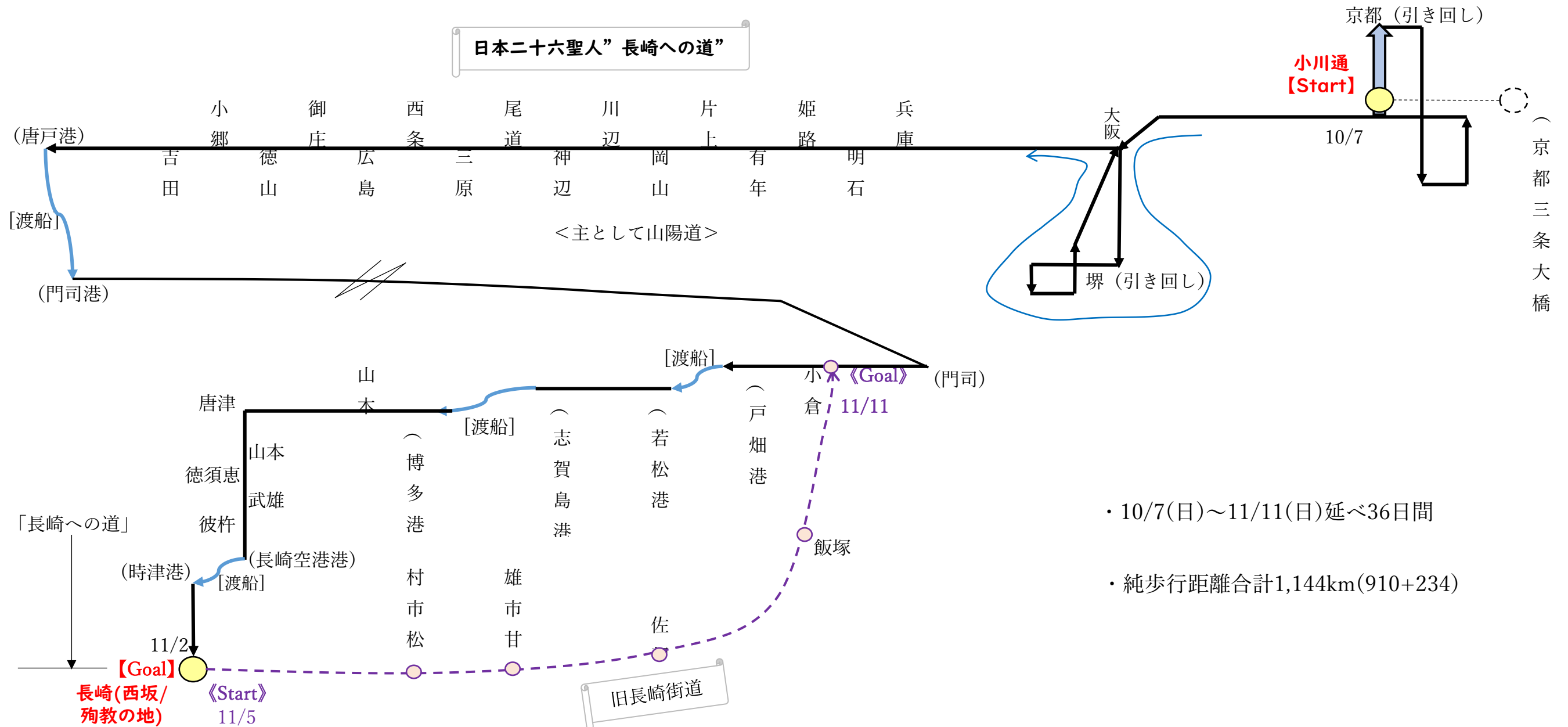
III __ 「旧長崎街道スルーハイク」実施結果の貫^か（完^ん）歩^ほ記録

< 補完資料 >

< 最後に >

○ 2018(平成30)年 「日本二十六聖人”長崎への道” & 旧長崎街道」スルーハイクの全体行程

- 長崎への道： 正味10月7日(日)～11月2日(金) 26連泊27日間(総距離941km、純歩行距離910km)
- 長崎市界隈周遊散策：11月3日(土)～11月4日(日)
- 旧長崎街道： 正味11月5日(月)～11月11日(日) 6連泊7日間(純歩行距離234km)



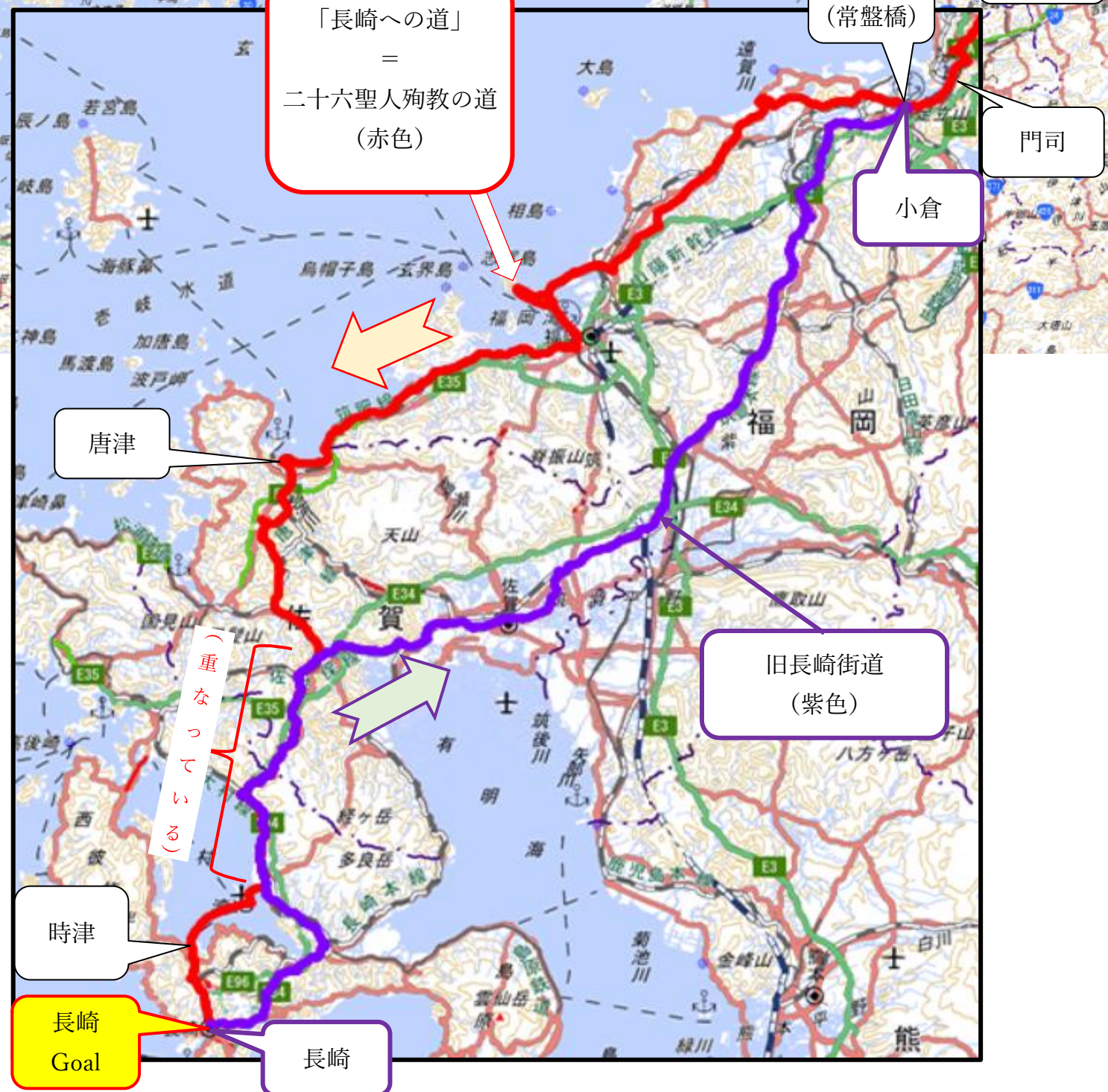


2018(平成30)

携行したGPS機の軌跡

図中の赤色実線と紫色実線（太い線）は、Covia社の「スマートフォンFLEAZ Que+N（ハード+地図ロイド『地図』と山旅ロガー『トラック記録』のアプリ）」に記録された「GPS軌跡（緯度・経度&タイムの電子スタンプ機能）＝トラックログ」です。

全ての移動軌跡を記録したので、細部を確認すると、全てを歩いたという事と、立ち寄り場所が判明し、全道歩き貫（完）歩の客観的な科学的・デジタル証拠を保持している事になっています。



< 携行したCovia社の「スマートフォンFLEAZ Que+N (地図ロイドと山旅ログのアプリ)」と「カシミール3D (フリーソフト)」により集計 >

累積 日数 (前日)	行動月日		街道の歩行区間 主要な通過地点名・始終点	実歩行 距離 km	歩行時間			平均時速 km/h	天候	備考	宿泊先	
	月 日	曜 日			開始 時:分	終了 時:分	時間:分				所在地	名称
	本番行程											
	10月6日	(土)	京都駅から三条大橋へ移動、京都市内散策						晴	自宅山形駅から新幹線等を利用	京都市中教区	カプセルリゾート京都スクエア
1日目	10月7日	(日)	(宿) → 京都内周回 → (宿)	37.4	6:37	16:42	10:05	3.7	晴	スタート	大阪府枚方市	枚方クリスタルホテル
2日目	10月8日	(月)	(前終点) → 大阪 → (宿)	27.9	7:26	16:14	8:48	3.2	快晴		大阪市天王寺区	旅の宿 葆光荘
3日目	10月9日	(火)	(前終点) → (堺周回) → 大阪 → (宿)	28.8	7:32	16:18	8:46	3.3	快晴		大阪府中央区	ホテルマイステイズ大手前
4日目	10月10日	(水)	(前終点) → 神戸 → (宿)	37.5	6:04	15:44	9:40	3.9	晴・雨	午後雨具着用	兵庫県神戸市中央区	サンサイドホテル
5日目	10月11日	(木)	(前終点) → 明石 → (宿)	32.7	6:56	15:12	8:16	4.0	小雨	一日中雨具着用	兵庫県明石市	ホテル大久保
6日目	10月12日	(金)	(前終点) → 加古川 → <姫路城> → (宿)	32.3	6:57	15:51	8:54	3.6	晴		兵庫県姫路市	姫路グリーンホテル
7日目	10月13日	(土)	(前終点) → (宿)	23.4	8:21	14:51	6:30	3.6	快晴	(ザック背への再表示)	兵庫県相生市	相生ステーションホテル
8日目	10月14日	(日)	(前終点) → 有年 → [船坂峠] → 片上 → (宿)	34.0	6:28	15:21	8:53	3.8	快晴		岡山県備前市	ビジネスインSTK
9日目	10月15日	(月)	(前終点) → <岡山城・後楽園> → (宿)	31.0	6:37	16:50	10:13	3.0	快晴		岡山県岡山市	岡山グリーンホテル
10日目	10月16日	(火)	(前終点) → 川辺 → (宿)	35.9	6:31	15:53	9:22	3.8	晴		岡山県矢掛町	備中屋長衛門
11日目	10月17日	(水)	(前終点) → 神辺 → (宿)	33.0	6:37	15:50	9:13	3.6	快晴		広島県福山市	ユースホテル セトウチノット
12日目	10月18日	(木)	(前終点) → [坊地峠] → 尾道 → (宿)	36.7	6:03	17:05	11:02	3.3	晴		広島県三原市	三原ステーションホテル
13日目	10月19日	(金)	(前終点) → [掘坂道] → (宿)	39.7	6:16	16:26	10:10	3.9	快晴		広島県東広島市	西条駅前ユースホテル
14日目	10月20日	(土)	(前終点) → [大山峠] → 広島平和記念公園 → (宿)	37.3	6:32	17:25	10:53	3.4	快晴		広島県広島市	いかわ旅館
15日目	10月21日	(日)	(前終点) → 塩屋 → (宿)	35.9	6:14	15:39	9:25	3.8	快晴		広島県大竹市	寿旅館
16日目	10月22日	(月)	(前終点) → <錦帯橋> → 御庄 → [欽明路峠] → (宿)	32.0	7:06	15:57	8:51	3.6	快晴		山口県岩国市	佐伯屋ホテル
17日目	10月23日	(火)	(前終点) → 徳山 → (宿)	32.6	6:56	15:42	8:46	3.7	晴/小雨	午後2時間ほど雨具着用	山口県周南市	旅館きしだ
18日目	10月24日	(水)	(前終点) → [浮野峠] → 防府 → (宿)	35.0	6:24	16:23	9:59	3.5	快晴		山口県山口市	長沢ガーデン
19日目	10月25日	(木)	(前終点) → 小郷 → (宿)	36.9	6:14	15:12	8:58	4.1	快晴		山口県山陽小野田市	エクストールイン厚狭駅前
20日目	10月26日	(金)	(前終点) → 吉田 → 唐戸 → (宿)	35.7	7:11	15:56	8:45	4.1	晴/小雨	午後2時間ほど雨具着用	山口県下関市	金楽旅館
21日目	10月27日	(土)	(前終点) → <渡船1> → 門司 → 小倉[常盤橋] → <渡船2> → (宿)	0.7	6:02	6:11	0:09	4.4	快晴		福岡県芦屋町	BHきんすい
				2.2	6:20	6:39	0:19	7.0				
				19.1	6:41	10:55	4:14	4.5				
				0.6	10:55	11:00	0:05	6.9				
22日目	10月28日	(日)	(前終点) → 赤間 → (宿)	27.9	6:27	15:29	9:02	3.1	曇		福岡県福岡市	ホテルAZ福岡和白店
23日目	10月29日	(月)	(前終点) → 志賀島 → <渡船3> → 博多 → <生の松原> → (宿)	13.3	6:37	9:32	2:55	4.6	快晴	渡船3(志賀島⇒博多)	福岡県糸島市	ホテルAZ福岡糸島店
				13.5	10:16	10:50	0:34	23.8				
				22.8	10:51	16:44	5:53	3.9				
24日目	10月30日	(火)	(前終点) → <虹の松原> → (宿)	33.9	7:03	16:08	9:05	3.7	快晴		佐賀県唐津市	唐津第一ホテル
25日目	10月31日	(水)	(前終点) → 山本 → 徳須恵 → [駒鳴峠] → (宿)	39.7	5:48	15:44	9:56	4.0	快晴		佐賀県武雄市	油屋旅館
26日目	11月1日	(木)	(前終点) → 嬉野 → [俵坂] → 彼杵 <二十六聖人乗船場跡> → (宿)	37.2	6:31	15:44	9:13	4.0	快晴		長崎県大村市	ホテルAZ長崎大村店
27日目	11月2日	(金)	(前終点) → 長崎空港 → (渡船4) → 時津 → 長崎平和公園 → 西坂 (日本二十六聖人殉教記念碑・ 同記念館) → (宿)	8.8	6:55	8:58	2:03	4.3	快晴	渡船4(長崎空港⇒時津)	長崎県長崎市	長崎オリオンホテル
				14.3	9:24	9:57	0:33	26.0				
				12.0	9:58	13:53	3:55	3.1				
総距離 (乗船含む) / 移動距離				941.0	km							
純徒歩距離 (乗船除く) / 沿面距離				910.0	km		時間・分	km/h				
1日平均 (徒歩のみ)				33.7	km		9:11	3.8				

累積 日数	行動月日		街道の歩行区間 主要な通過地点名・始終点	実歩行 距離 km	歩行時間			平均時速 km/h	天候	備考	宿泊先	
	月 日	曜 日			開始 時:分	終了 時:分	時間:分				所在地	名称
<長崎市内散策>												
1日目	11月3日	(土)	長崎駅前→潜伏キリシタンの里 外海地区→(宿)						快晴	長崎遊覧トラベル世界遺産ツアー	長崎県長崎市	長崎オリオンホテル
2日目	10月4日	(日)	(宿)→大浦天主堂→坂本龍馬ゆかりの地→(宿)						快晴	長崎市内ゆかりの地	長崎県長崎市	アパホテル長崎駅前

「旧長崎街道スルーハイク」の全行程集計表

2018 < 携行したCovia社の「スマートフォンFLEAZ Que+N (地図ロイドと山旅ログのアプリ)」と「カシミール3D (フリーソフト)」により集計 >

<旧長崎街道>												
1日目	11月5日	(月)	(宿)→[日見峠]→[鈴田峠(風観岳越)]→(宿)	39.6	6:31	16:43	10:12	3.9	快晴		長崎県大村市	チサンイン大村長崎空港
2日目	11月6日	(火)	(前終点)→大村松並(追分)→[俵坂峠]→(宿)	31.3	6:48	15:08	8:20	3.8	快晴		佐賀県嬉野市	BH梁井
3日目	11月7日	(水)	(前終点)→武雄甘久(追分)→肥前山口駅→(宿)	31.5	6:43	14:53	8:10	3.9	快晴	山口駅から佐賀駅まで電車	佐賀県佐賀市	東横イン佐賀駅前
4日目	11月8日	(木)	(前終点)→(宿)	29.3	7:24	15:44	8:20	3.5	晴・小雨	14時頃から30分雨具着用	佐賀県神埼市	わたや旅館
5日目	11月9日	(金)	(前終点)→(宿)	31.5	7:12	15:35	8:23	3.8	快晴		福岡県筑前町	ホテルAZ福岡夜須店
6日目	11月10日	(土)	(前終点)→[冷水峠]→(宿)	41.7	6:42	16:17	9:35	4.4	快晴		福岡市直方市	プラザホテル直方
7日目	11月11日	(日)	(前終点)→小倉(宿)	29.1	6:49	14:00	7:11	4.0	快晴		福岡県北九州市小倉	スーパーホテル小倉駅南口
(後日)	11月12日	(月)	小倉→(新幹線)→帰宅							帰宅	山形県山形市	[自宅]
総距離(徒歩のみ)				234.0	km							
1日平均				33.4	km		8:35	3.9				
							時間・分	km/h				

3日目の11月7日(水)嬉野から神崎までの間で、1日行程の30数kmほどの所に宿がないことから、肥前山口駅で電車に乗り、佐賀駅前のビジネスホテルに宿泊した。

翌日は逆に佐賀駅から肥前山口駅まで電車移動し、前日終点(基点)から歩き始めた。よって、旧長崎街道の道筋に踏査しない空白は生じていない。



於 広島原爆ドーム前



於 長崎平和公園

長崎遊学 Zigzag 紀行の「大香ブランド老魂サブタイトル」を

○ 『ちょうちんフットライト (footlights) 大作戦』 とした理由

来年 2019 年は改元があり、5 月 1 日に新元号になるという、そして前年の今年 2018 年は『平成』通年最後の年となります。前半（前期）は 3 回目の四国へんろ——2018(H30)年 4 月 3 日(火)～5 月 22(火)の 49 連泊 50 日間、1,322km——を終えたが、後半（後期）をどう過ごす（暮らす）のか、あれこれ思案しました。また、来年 2019 年の転換期をどうするのか。吾がフラフラ人生への記念すべきスタンプを何に求めればよいのか。

戻って、今年の前期だけではどうも中途半端を感じました。『平成』通年の最後にもう一度人生を振り返り、足元を照らして新たな決意を探したいという思いにかられました。

そんな思案の中で、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録を知り、「日本二十六聖人」のことに触れる中で、捕縛されたキリシタンが歩いた「長崎への道」を知ったのです。また、江戸時代鎖国体制下唯一開港していた長崎から長崎街道を通して、大阪・京都・江戸との物流・人物往来が盛んであったことを改めて認識しました。

一方、定年退職後の 61 歳から始めた「歴史街道スルーハイク」（約 7,000km 徒歩）は、本州は大阪より東側地域のみと四国に足を運んでいました。この節目の年に西日本（西国・九州）にも足を延ばしたいという思いが強くなりました。

そこで、京都から長崎まで（旧山陽道≡長崎への道）と、長崎から小倉まで（旧長崎街道）のルートを連結して見ると図-A のとおりになりました。



図-A

それを眺めていて直感浮かんだのが「やわらかい幾何学」と言われる『トポロジー』のことです。図-B において「コーヒーカップを、取っ手の輪っかを残すように変形すると

ドーナツの形に成ります。従ってコーヒーカップとドーナツは同じもの。」とする見方です。数学的な難しい理論はあるが解らないので省きます。

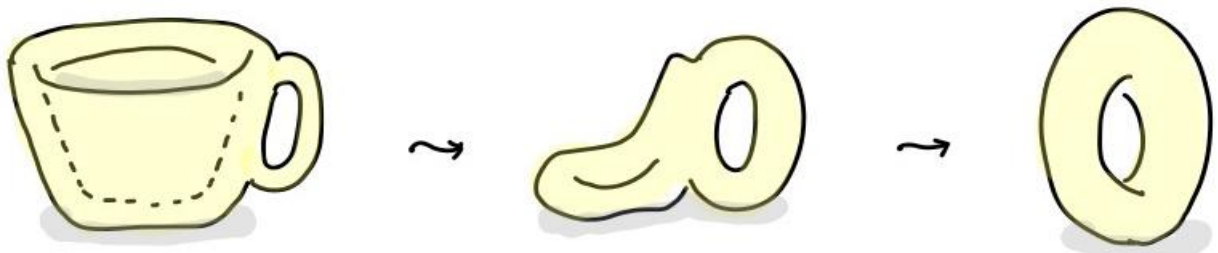


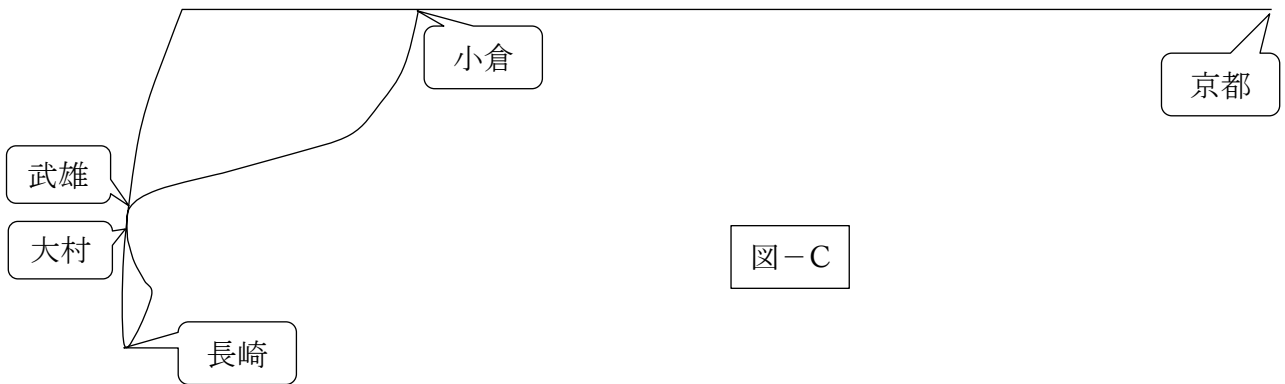
図-B

さらに、図-Aをデフォルメ（簡単・誇張化）すると図-Cのようになります。

さらに同図をトポロジカルにすると図-Dのようになります。

これは、まさに『ちょうちん』そのものです。大小連結の『ちょうちん』です。

（“ひょうたん”似でもあるが、私にぴったり来る意義付けが見当たらず採用不可！）



ちょうちんは、暗闇の中で足元を照らし、正しき方向に導く道しるべの役割を果たします。それを、日々右往左往し暗中模索の状態にいる私に、諸々の反省を促し、新たな決意・決心を蜂起させ、正しき道に導く誘因子の働きに相当するものではないかと思ったのです。禅語の脚下照顧（きやつかしようこ 他者に向かってへ理屈を言う前に、まず自分の足元を見て自分のことをよく反省すべき）も浮かび重なりました。

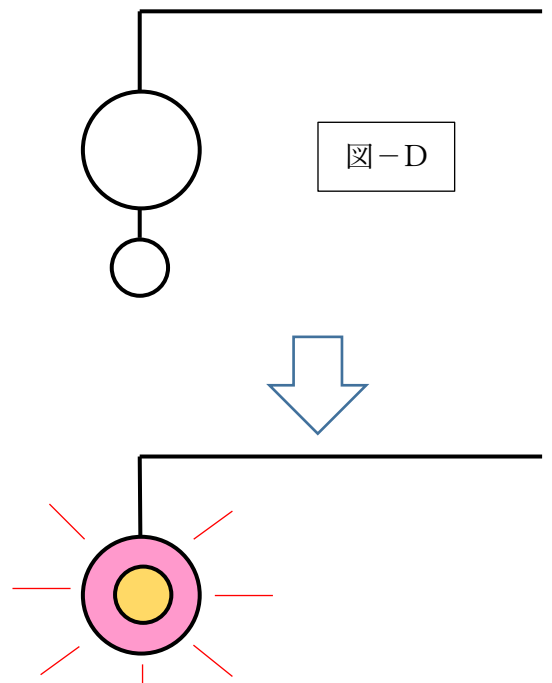
二十六聖人の歩いた「長崎への道」と、時の人物が往来した「旧長崎街道」をつぶさに観察して来ることを合わせて、踏査に挑戦することにしました。

そんなことから、「大香ブランド老魂サブタイトル」（だいこう ろうこん 所期の目標貫徹のやる気を持続させる心の内発エンジン）を

『ちょうちんフットライト（footlights）大作戦』

と設定したのです。

世は「フットライト（footlights）」と真逆の「ヘッドライト（headlight）」——ひらめ人間を好し、としますが、この度の私はあくまでも脚下照顧（きやつかしようこ 照し顧し脚下）に拘ってスルーハイクすることとします。



I __ 「 日本二十六聖人“長崎への道”スルーハイク 」
(慰霊鎮魂の旅)

正味10月7日（日）～11月2日（金）26連泊27日間
(総距離941km、純歩行距離910km)

の

実施結果の貫^か（完）^ん歩^ほ記録

1.計画検討・あれこれ思案

(1)「日本二十六聖人“長崎への道”」に関心・興味を持った切っ掛け

a.神・仏からキリスト教へ

定年退職後の61歳から始めた「歴史街道スルーハイク」(7,000km徒歩)の中で、そして近年の3回の四国へんろを行う中で、一期一会の出会いに華咲く対等互敬(恵)の人間関係性、四国へんろのお接待の基層にある博愛主義とも思える情愛、そのような人間の本心・真心に触れているうちにキリスト教に興味を湧いて来たのです。

元々、歴史に関心があり、神道や仏教については、好奇心の赴くままに関連書籍を読み、前記徒歩の旅を通して触れて来ましたが、あまりキリスト教には関心を寄せていませんでした。

こうした中、特に、最後の四国へんろと思い取り組んだ第3回自へんろ———本年、正味4月3日(火)～5月22日(火)49連泊50日間———において、あらためて、人の崇高な無償の愛が沁み込んだお接待の心に触れ、キリスト教の教えに繋がるような気がしたのです。四国へんろの目指すフィールドはお寺ですから基本は仏教世界の空間です(一部神道の世界も絡んでいる)が、加えてどこかキリスト教も重なる面があるという思いが強くなりつつありました。

b.潜伏キリシタン関連遺産

その3回目四国へんろの帰宅後、初心者向けのキリスト教に係る書籍を買い求め読んでいました。そんな中、本年6月30日(土曜日)、バーレーンで開催中の第42回世界遺産委員会において、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」を世界文化遺産に登録した、というニュースが流れました。インターネットで調べ、本を買い増ししている中で、「日本二十六聖人」のことに触れたのです。「豊臣秀吉の禁教令に触れたため、外国人キリスト教宣教師6名と日本人キリシタン20名の計26名が捕縛されて、京都で左の耳たぶを切り落とされて市中引き回しとなり、大阪に移動させられ、1597年1月10日大坂から長崎まで歩かされ、1597年2月5日(旧暦、慶長元年12月19日)、長崎は西坂で処刑された、殉教した。」という歴史的事件があったことを初めて知りました。日本で初めてのキリスト教信者の殉教という事件でありました。

c.行きたい願望

そのことを深く知るうちに、次の二つが浮かんで来ました。

- | |
|-----------------------------|
| ①京都から長崎まで歩いた道とはどんな道なのか？ |
| ②二十六聖人が処刑された長崎の西坂とはどんな所なのか？ |

d.直情径行型

まずは長崎とはどんな所なのか、居ても立っても居られなくなりました。(以前、とある旅行会社ツアーで1度行っている。)台風24号の襲来直前の9月25日(火)～28日(金)までの3泊4日間、妻と長崎へ行くことにしました、前日の9月24日(月)急遽決めました、そして、行って来ました。「日本二十六聖人記念碑(ブロンズ像)・同記念館」や「信徒発見」奇跡の地—大浦天主堂などを訪ねて来ました。

異国情緒溢れた長崎の街を歩きながら散策したが、多くの人々(キリシタン)が残酷な仕打ちに耐えた話や処刑されたキリシタンの歴史に思いが馳せる時、どうしても「二十六聖人が歩いた京都から長崎までの道」をスルーハイクしたくなったのです。

(2) ルートの確認

それでは、日本二十六聖人が京都から長崎まで歩いた具体的なルート（道筋）はどこなのか、という率直な疑問が湧きました。ルートを探しているうちに、図-1のとおりのカトリック中央協議会発行「日本二十六聖人“長崎への道”巡礼Map」に出会い、購入しました。そのルートの概要は、図-2（「日本二十六聖人記念館」の総合ガイドブックより拝借）に記載のとおりです。

なお、細部については、両者で一部異なる所（ルート）もあります。そもそも1597（慶長元）年に発生した本件について日本人の記録はなく、当時の外国人神父が本国に報告した内容に基づくものであり、本当に歩いたルートについて正確な記録はない、判明していないということです。



図-1



図-2

(3) ルートの確定

現在は道路が縦横無尽に交差しています、また、前出同マップはその中で「10万分の一の地図を主に使用した」とあるとおり、地図は凝縮しており、同マップを参考にしても往時の道に最も近い道筋を歩くことは不可能です。敢えて歩くとすれば、現時の国道まっしぐらとなります、それでは私は納得しません。そこで浮かぶのが旧街道の事です。その基本は、図-3 (インターネットより拝借) のとおり、古代日本の律令制における広域地方行政区画を道路で結んでおりました。いわゆる官道(現時の市町村国道相当)が整備されたのです。1597年当時を想像すれば、同図にあるような道がいわゆる一本道でした。現在のような無数に道路が交錯しているようでは、関所や番所を設置するには莫大な管理費用を要し当時としては有り得なかったでしょう。ということは、行政府が管理出来る規模の道だけであった、つまり、一本道だったから関所や番所を設置する意義があったのです。だとすれば、前出同「長崎への道」は、「旧山陽道」や脇街道としての「旧唐津街道」や「旧長崎街道・旧時津(浦上)街道」などと重なって来ます、繋がっていたということになります。

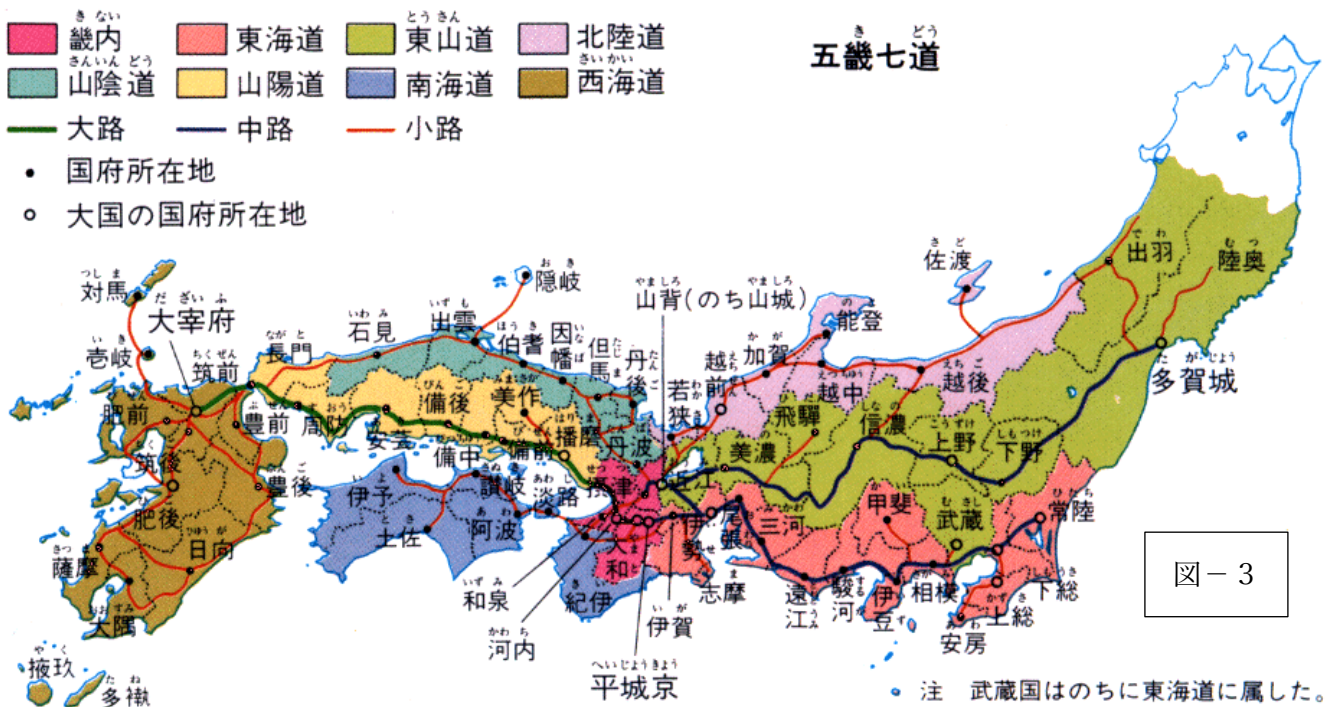


図-3

そこで、それらの旧街道のルートを客観的視点から調査・確認することにしました。インターネット上には旧街道を実際に歩いてルートを公開している人が多数います。彼らは国が整理した「歴史の道調査報告書」や地方行政が作成した歴史の道ルート案内書などを参考に道筋を確定し実践しています。私はそれらを参考に、さらには関連図書を購入手、総合的に整理・精査して、客観的なルートを確定しました。いつものとおり、そのルートをパソコン上(カシミール3Dソフト+国土地理院電子国土)で電子化を図り、ガーミン社GPS機オレゴンにインストールして携行しました。なお、旧街道の名称については、同じ道でありながら見方によって様々な呼称がありました。これらを整理すると図(表)-4のとおりです。

(4) 出発日の設定

a. 二十六聖人の経緯

細部は、【補完-1】「日本二十六聖人」に係る歴史について――に別記するが、ここでは極簡単に纏めます。遡ること1597(慶長元)年1月1日と2日に、最初に畿内キリシタン24名が京都で捕縛されて全員が牢獄に移された、3日に京都は上京の一条辻戻橋近くで左耳を削がれ、見せしめとして8台の荷車に乗せ

られて市中引き回しとされた。引き続き、1月4日京都を発ち、大阪へ向かい、さらに堺まで回って、見せしめに引き回された、そして、1月10日にいよいよ大阪を発ち長崎を目指した、そして、(33日目の) 2月5日(水)に長崎西坂に到着し、即刻十字架にかけられ処刑されたのです。大阪までの行程の概要は図(表)-5のとおりです。

	旧街道名称	根拠とした資料
○京都～大阪	旧京街道 (=旧大阪街道or旧京阪街道)	「京街道 (横井三保著/向陽書房)」
○大阪～堺～大坂	旧熊野古道 (紀伊路)、旧紀州街道	「熊野古道を歩く旅 (山と溪谷社)」
○大阪～小倉	旧山陽道 (=旧西国街道or旧中国街道)	インターネットサイトの公開ルート (3人) 各行政のHP (観光資料等)
○小倉～唐津	旧唐津街道	「唐津街道を歩く (島村利彦/弦書房)」
○唐津～武雄	(同上巡礼Mapでは、虹ノ松原から山本宿へととなっているが、私は唐津城を經由し山本宿に達した。)	「日本二十六聖人“長崎への道”巡礼Map (カトリック中央協議会)」
○武雄～大村	旧長崎街道	「長崎街道を行く (松尾卓次/葦書房)」
大村～時津	(大村湾海上路は旧街道の一部ではなかった。二十六聖人だけの海上航路。)	
○時津～長崎	旧浦上街道 (=旧時津街道)	「長崎の史跡・街道 (長崎歴史文化博物館)」

図(表)-4

1/1	1/2	1/3	1/4	1/5	1/6	1/7	1/8	1/9	1/10
24人を京都牢獄に捕縛 1/3に左耳を切除 京都引き回し			京都 ↓ 大阪(泊)	大阪 ↓ 堺(泊)	堺引き回し、沙汰待ち 1/8に長崎での処刑が決定 堺(泊)			堺 ↓ 大阪(泊)	大阪 ↓ 長崎へ

図(表)-5

なお、途中(一説に安芸の国、現在の広島県西半分)で、京都から捕縛者世話役として同行していた2名も捕縛され、――正確には自ら同列殉教を申告した自発的殉教であると云われている――ここに26名(外国人宣教師6名+日本人信徒等20名)となったのです。前記のとおり、2人は京都から同行していたものであり、一般的には京都から26人が歩いたとしています、その顔ぶれは後記【補完-3】を参照のこと。

b.私の出立日を何時にするか

そこで、「日本二十六聖人“長崎への道”」上書き検証ウォーキングを敢行するに当り、出発地を何処に設定し、出発日を何時に設定するか、について少し悩み(思案)しました。

遡って3回目の四国へんろを終えて帰宅したのが5月22日(火)で、それ以降の時間経過があり、前記のとおり9月25日(火)～28日(金)長崎旅行に行ってきたことからそれ以降の何時にするのか、となりました。

当時の実際の月は1月、それに苦しみの『9』を絡ませて、10月（1+9）に設定することとしました。日にちは、どうするか。計画ルートをパソコン上で計測すると、京都→大阪→堺→大阪間は約100kmです、私の徒歩力では3日間です。当時の実際の長崎に向けた本格移動は、大阪発（1月）10日でした。そこで、私は大阪発を10月10日に設定し、逆算して京都発を10月7日と計画しました。10月の10の0（ゼロ）は“無”であり、0（ゼロ）をカット・ネグレクトすると1が残ります、1は1月の1であります。ここに同聖人の本格移動日の1月10日に重なったのです。

私の実施結果は、計画どおり図(表)－6のとおりとなりました。

図(表)－6					
10/1～10/5	10/6(土)	10/7(日)	10/8(月)	10/9(火)	10/10(水)
ルート、関連資料の下調べ	山形⇒京都 (市内散策)	^{ひらかた} ⇒枚方市駅前泊 (37.4km)	⇒大阪市 天王寺駅前泊 (27.9km)	⇒ 堺 ⇒ 大阪市中央区泊 (28.8km)	大阪発、長崎へ向けたウォーキングを開始
			2018(H30)年の“長崎くんち”10/7～10/9		

2. 実行結果

踏み入れた府県は、京都府、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、山口県、福岡県、佐賀県、長崎県の9府県となりました。

(1) 歩いた道筋

本文冒頭に記述したとおりで、京都→<旧京街道>→大阪→堺→大阪→<旧山陽道＝旧西国街道>→（九州入り）小倉の常盤橋→<旧唐津街道>→<(*) 旧塚崎往還＝旧唐津往還＝旧唐津脇往還>→<旧長崎街道>→<旧浦上街道>→長崎（西坂）となりました。

(*) 唐津（山本）から武雄（塚崎）までの旧街道呼称については、道筋に掲示していた幾つかの歴史関連説明版により、そのような名称を確認出来ました。

自宅から京都に向かった10月6日(土)は、京都駅からまずは三条大橋に行きました。ここは、旧東海道、旧中山道などの主要街道の基点でありました。小雨でしたが、周辺は大勢の人達で賑わっていました。ここに来るのは、両旧街道スルーハイクと旧北奥ルートのスルーハイク以来、4回目の立ち寄りとなります。懐かしく思いました。

いよいよ、10月7日(日)早朝・晴、京都御所近く（当時の小川通御池牢屋敷近く）の宿を出発しました、前記図－1の巡礼Map記載の京都市内引き回しルートを周回し、その後大阪へ、最終目標点長崎へ向けて歩を進めました。

(2) 歩いた距離

私が移動した距離は図(表)－7のとおりとなりました。これは、道を大きく外れた寄り道散策などは除外し、ルート（道筋）に忠実に沿った距離の積算です。

距離について第三者の書籍に目を通すと次のとおりであります。

- 前出同巡礼Mapには、「・・・大阪に戻ってから九百キロにも及ぶ長崎への道・・・」と記載されています。

		京都→長崎	大阪→長崎（再掲）
a	総移動距離	941km	847km
b	歩 行	910km	816km
a-b	渡 船	31km	
図(表)－7			

- 「二十六聖人と長崎物語」（結城了悟著／聖母文庫）には「・・・旅の道程は八百キロメートル以上で・・・」と記載されています。
- 「ながさき旅ネット」（長崎県観光連盟 長崎県文化観光国際部観光振興課）には「・・・信仰を守り続け、1,000キロの道のり・・・」と記載されています。

現時から420年以上前の1597年頃の地図と当時実際に歩いた細部の記録はないことから一部推定の域を出ない処があり、基準点の取り方やルートを選定により差異が生ずるのは当然のことです。また、特に九州に入ってから武雄に至るルートが明確でないという記述もあり、異同が生ずるのも当然です。また、歩行分だけなのか、渡船ルートをどのように計測したのか、実際に歩いたルートをメジャーで実測したのか、国土地理院やその他の地図上の縮尺を以って置き換え計算したのか、積算方法がいろいろと考えられます。よって、各書籍の表現は一概に間違いとは言えず、当事者の根拠からすれば正しい！ 大同小異という処でしょう。いずれにしても私が歩いたルートは、前記のとおり、客観的根拠に基づくように努力したつもりであり、距離は間違っていなかったと思います。

敢えてデフォルメ（誇張、強調して簡略化・省略化）すれば、京都からは約1,000キロ、大阪からは900キロなのではないでしょうか。

私の実施結果に係る1日当たりの徒歩のみ行動データは図(表)－8のとおりとなりました。

(3) 感涙

二十六聖人はいよいよ処刑日の前日となりました。^{そのぎ}彼杵（長崎県東彼杵郡東彼杵町彼杵宿郷）に到着し

図(表)－8	1日当たりの平均歩行距離	1日当たりの平均歩行時間	1日当たりの平均歩行時速
道筋	33.7km	9時間11分	3.8km/h

た一行は、図－9a①の河口から船に乗せられ、大村湾を渡って真夜中、時津港^{とぎつ}に着き、その船の中で就寝に着きました。とても寒い夜であったと伝えられています。図－9a②は彼杵側船出の場所に設置されている「日本二十六聖人乗船場跡」の碑であります。また、図－9b③は状況・経緯を簡単に刻字した銘文「いしぶみ」です。処刑日の明け方に時津の港で船を降りて上陸し、いよいよ西坂に向かったのです。図－9b④は時津港に設置されている「日本二十六聖人上陸の地」の碑です。

この場面は、よくぞ命を繋いで来たことか、死に向かう最終局面です。どのような心情であったろうか。身体（肉体）はボロボロではなかったのでしょうか。しかし、ここまでは誰一人として弱音を吐くことや、改宗・転向はしなかったのです。むしろキリスト様の御許^{みもと}に近づくこと、命を捧げることに喜びを感じたというのです。私は非情への怒りと同情の念で涙ぐんでしまいました。



図-9 a



図-9 b

(4) 歩いて感じた道

a. 過去には歴史街道約7,000kmと四国へんろ道約4,300kmを歩いておりますが、それらと比較して今回の同上長崎への道は、1か所（後述の大山峠越え）を除いては格別の難儀を要する山道、危険な箇所はありませんでした。現在に至っては99%程度が舗装され、峠越え・山越えも殆どが簡易舗装されていました。ただ、同上二十六聖人が歩いた1597年頃は、舗装道路はなかつたろうから、最も寒い時期、雨・雪でぬかるんだ道・滑りやすい道で、険しくはないものの長い峠越えもある中、わらじ履きと雖も裸足同然の歩行はかなりの苦痛を伴ったことだったでしょう。

最新の運動理論に基づき製造された登山靴と雨具を着用した私ですが、当時の不快さと苦痛は想像出来ませんでした。同聖人に比して、私の苦労などというものはその名に値しません。

b. 危険を感じた唯一の道

この941kmの歩行道中で、危険・不安を感じた唯一の場所が「大山峠」（広島県東広島市八本松町～同市安芸区上瀬野町）越えです。この峠の山中には 平成30年7月豪雨災害――6月28日から7月8日に掛けて、西日本を中心に中部地方や北海道など全国的に広い範囲で被災した台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨、特に広島県内が甚大な被害の痕跡がいまだに残されていました。

図-10の①は山道に入る手前の案内標識です、進むと通行止めの標識はありましたが、大したことはないだろうと強行突破しました。被災後4か月以上経過しているが、川筋の大規模崩壊や土石流の痕跡（同図②～④）が生々しく残っていました。

広い所だと幅100m位に渡って削られ、U字状やV字状になっていました。巨大な水の破壊力を目の当たりにしました。



図-10

図-11において図-10に係る山道約1.5kmの区間は、至る所で山・川はズタズタに破壊されていました。同図において右（東）から左（西）方向に歩いたが、山道の入り口からまもなくルートは寸断されました。大山峠山頂より東側は数箇所を横切るルート、同山頂より西側は川筋のルートでしたが、旧街道の歩き道——元々は図-10②③④の川筋にあったはず——は完全に消失です。破壊された河原以外の両側は山林（藪）で、簡単には踏み入れられません、歩けません。仕方なく少しでも歩き易いルートと見定めた河原の底を歩く他はありません。川底に入ると両側の樹木が生えているラインまで数十メートル以上あります。左右壁で囲まれて要塞に閉じ込められているような恐怖感がありました。もしも、㊦天候急変で雨が降って来たら、㊧地震発生で岩石が崩れて来たら、㊨川の堰止湖が崩れて大量の水が押し寄せて来たら、はてどうすれば良いのか、余計な心配事が次から次へと浮かんで不安に駆られました。

しかしです、一方で私の心に内在・潜在する蔵主権現が怒り出します、“強行突破しないでどうするのだ、計画ルートに入れたのは自分ではないか、(前者)「義を見てせざるは勇無きなり（人として当然行すべきことと知りながら、それを実行しないのは勇気がないからである。）」を思い出せ”、と叱ら

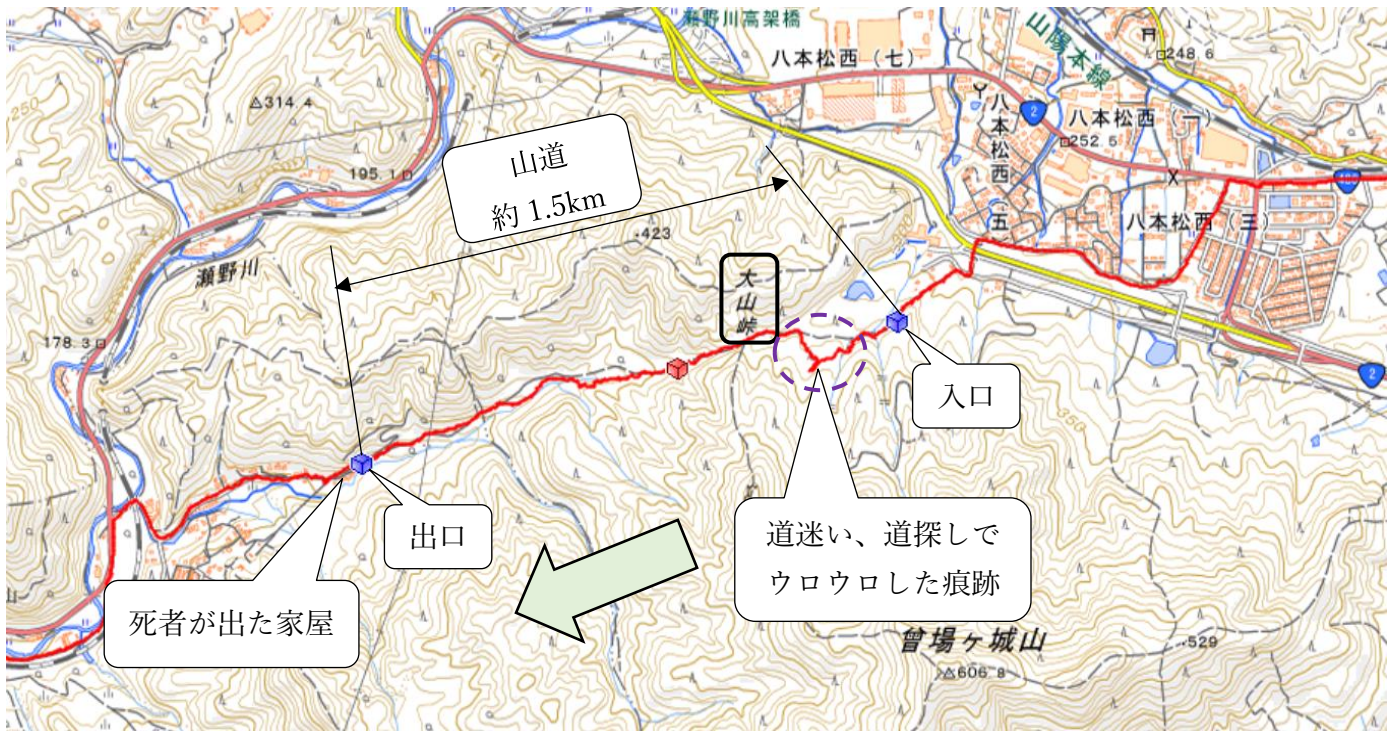


図-11

れました。一方、(後者)“逃げるが勝ち・急がば廻れ”という訓えもありますが、この時に湧き上がった方針は前者の“中央突破”だけでした。もちろん、一步一步は慎重を期して安全第一の姿勢となりました。後者のような言葉を吐く心理は、実は本心は「逃げる！」ことです。

不安と恐怖を掻き消すべく必死になって歩き、川底を急ぎ足40分ほどで旧街道の道が表れたことから無事脱出出来ました。

(5) 主な寄り道

a. 『城』巡り等 (図-12ab)

12a①6日目の10月12日(金) 姫路城を散策し、翌日13日の早朝に同城を周回しました。

12a②9日目の10月15日(月) 岡山城・後樂園を散策しました。

12b③14日目の10月20日(日) 広島城を散策しました。

12b④16日目の10月22日(火) 錦帯橋・吉香公園を散策しました。私の後方離れた所に岩国城もあつたのですが、時間的余裕がなくそこには立ち寄りませんでした。



図-12a



図-12b

b. 平和の祈り

同上ルートの途中に原爆が投下された広島の地（図-13a①／平和記念公園）ならびに長崎の地（図-13a②／平和公園）を通過することから立ち寄りました。

図-13b③は広島、同図④は長崎の、折りの鶴の塔です。



図-13a

(a) 歌の奉納



図-13b

その2箇所において、祈りの塔の正面に向かって図-14aのとおり「折り鶴」を歌って奉納しました。また、その「折り鶴」を原曲に、私のsyncretism(シンクレティズム)宗教観を乗せて、この出発前に自宅で替え歌(図-14b)を作っていたことからこの歌も合わせて奉納しました。3回繰り返し、原爆被災者に対する鎮魂・慰霊の祈りを捧げました。長崎では歌っている時に近付いて来た外国人(男性)から“Very good”という声(お世辞)を掛けられました。

折り鶴

梅原司平 作詞
作曲

The musical score is written in treble clef with a key signature of one flat (B-flat) and a 4/4 time signature. It consists of six staves of music with corresponding lyrics and chord markings above the notes.

Staff 1: Chords: F, Dm, Bb, C7. Lyrics: 1. いきていてよかった それをかんじたくて ヒロシマのまちから わたしはあるいてきた くる

Staff 2: Chords: F, Dm, Bb, C7. Lyrics: 2. いきていてよかった それをみつけたくて ナガサキのまちから わたしはあるいてきた この

Staff 3: Chords: Dm, Am, Gm, A7. Lyrics: あとのしたから ここまであるいてきた この

Staff 4: Chords: Dm, Am, Gm, C7. Lyrics: みみをふさいでも きこえるこえーがある この

Staff 5: Chords: Dm, Am, Gm, C7. Lyrics: こころとぎしても あふれるあいがある はばた

Staff 6: Chords: F, Am, Bb, C7. Lyrics: け(はばたけ)おりづる(おりづる) わたしからあなたへ はばた

Staff 7: Chords: F, Am, Gm, C7, F. Lyrics: け(はばたけ)おりづる(おりづる) あなたからせかいへ

図-14a

さて、この歌「折り鶴」を知ったのは、前記妻と長崎に旅行し平和公園に立ち寄った時、大勢の小中修学旅行生がいて、その中の福岡市内の小学六年生が歌っていたのを聞いて、とてもいい歌だと思い楽譜を見せて貰ったからでした。作詞・作曲者の梅原司平さんの歌をYouTubeからダウンロードし、覚えました。両会場において周りを見渡した処、集まっている人達は、殆どが外国人それも欧米人のように見えました。東南アジア人は見かけず、日本人もこの時間帯はここにはあまり見かけませんでした。

(原曲は「折り鶴」の替え歌)

いきていてよかった それをかんじたくて ヒロ
しーみをことばに かなしみをいかりに きず

1. やお よろずのかみさま あなたのおつとめは まじ
ビーのおちからで ケガレをはらい たもう せい

2. だい にーちほとけさま あなたのおつとめは ぼん
わーれしがらみの じゅばくをとときほぐす むー

3. イエ スーキリストさま あなたのおつとめは うちゅ
しーくそいねする むしょ うのふかきあい ひと

シマのまちから わたしはあるいてきた くる
ついたからだで ここまであるいてきた この
1 かなしげんーの いしや きぎにもやどり ムス
めいせいちゅくを あまねくーたれてま す その

2 の うくるしみの しゅうちゅく のきばをぬき とら
くうでそめよーと うらま でーまわりま す その

3 うのそとにたち あめつちのせいめい に やさ
よをさばかずに ひとしくーつつみま す その

みみをふさいでも きこえるこえーがある この
こえはともなりし ひとつにからみあい その
こころとぎしても あふれるあいがある はばた
こえはなみに のり こころにしみてくる みんな
けはばたけおりづる(おりづる) わたしからあなたへ はばた
を(みんなを)いのらむ(いのらむ) うちなりのたましい こころ
けはばたけおりづる(おりづる) あなたからせかいへ
に(こころに)つばきを(つばきを) おおらかにそだてん

1. 八百万の神様 あなたのお勤めは
ま近か自然の 石や木々にも宿り
(注1) 「ムスビ」の御力で “ケガレ” を祓い賜う
「清明正直」を 遍く 垂れてます
2. 大日仏様 あなたのお勤めは
煩惱苦しみの “執着” の牙を抜き
捉われ、しがらみの 呪縛を解きほぐす
無・空で染めよと 裏まで 廻ります
3. イエス・キリスト様 あなたのお勤めは
宇宙の外に立ち 天地の生命に
優しく添い寝する 無償の深き愛
人世を裁かずに 等しく 包みます
.....
その声は共鳴りし 一つに絡み合い
その声は波に乗り 心に沁みて来る
みんなを祈らむ 内生りの 魂
心に(注2) 椿を 大らかに育てん
- (※1) 「ムスビ」とは、万物の生命・
靈魂の繁殖・繁栄をいう。
(※2) 「椿」は、私の syncretism
宗教観の象徴とする。

※1;楽譜直下の歌詞は、原曲-(歌唱;梅原司平/作詞・
作曲;梅原司平)の1番の歌詞
※2;替え歌の詩は大沼香作 2018(H30)年10月5日(金)

図-14b

(b) 私の贖罪

ところで、広島と長崎での慰霊の祈りにこれほど拘った、思い入れを深めたのか、という自問があります。一般的な平和への希求は当然としてもそれ以外の理由がありました。遡って私の会社現役時代にありますが、私の贖罪の気持ちがあるからです。

2011(平成23)年3月11日(金)午後「東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)」が発生した際に、東京電力(株)の不始末・大失態——史上最恥辱・最極悪の犯罪行為であり、本来は会長以下過去の役員全員の財産を没収し、逮捕拘禁し重罪に処すべきものと思う——により、福島第一原子力発電所で原子力事故が発生し、大気・土壌・海洋を放射能汚染に至らしめた大事件に関係します。私は電力エネルギー産業に従事していた退職近くの5年間は、社内において「電源のベストミックス」と言う大号令に呑まれてつつ、直接の部署ではなかったが、原子力発電所の安全神話作りに積極的に係って来た事実がありました。リタイヤした翌年の事件・巨事故でしたが、『嘘つき』の怒号を受けてもやむを得ないと思う反省と償いの気持ちが湧き上がり(今も残っています)、原発→放射性物質→放射能→原爆の連鎖でどうしても広島・長崎の原爆被害が離れないのです。

(6) 長崎市西坂にゴール

a. 二十六聖人の内なる涙とともに

私は11月2日(金)13時11分に長崎市西坂（刑の執行の場所）に到着しました。長崎平和公園から西坂までのルートは前頁図-15a、西坂の地は前頁図-15bのとおりです。自由を奪われた二十六聖人は、想像を絶する過酷な仕打ちを受けながら誰一人として脱落する者がなく、この処刑の地に到着しました。直ちに処刑されるに至ったが、暴れたり、奇声を発したり、命乞いをしたり、醜態を見せるものは誰一人としていなかったのです。そのことに思いをはせつつ、今回のスルーハイク最終目標地の西坂に到達しました。

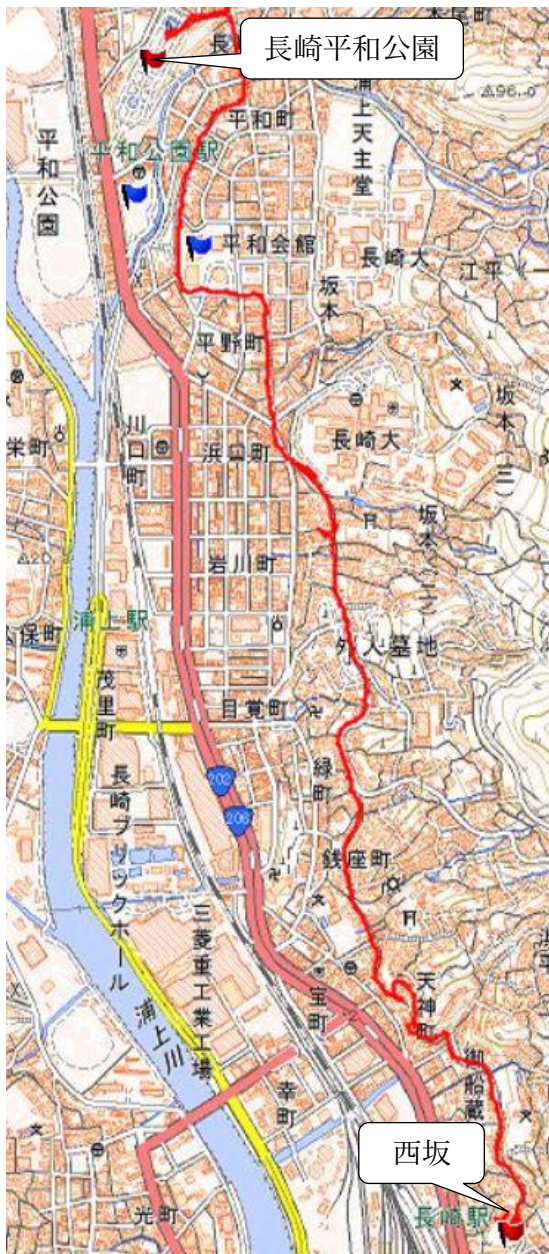


図-15a



図-15b

西坂の地は、現在では長崎駅の東側直ぐの所です。ここには「日本二十六聖人記念碑；ブロンズ像」(図-16)と「日本二十六聖人記念館」(同図ブロンズ像の後方の建物)があります。

二十六聖人に、「27日目の金曜日」(後記)に直面出来たことに感無量の感慨が湧きました、胸がいっぱいになりました。 二十六聖人に直面し、次の順序で、

✽1 日本人の(八百万の)神様に対する「二礼二拍手一礼」を以って拝礼し、

※2 次に日本人の仏様に対する「合掌」を以って拝礼し、

※3 最後にキリスト教カトリック形式で「父（額）と子（胸）と聖霊（左肩）の御名^{みな}によって（右肩）、アーメン（指を組んで合唱）と唱え、十字を切る」を以って拝礼しました。



図-16

このような姿勢が、私のsyncretism(シンクレティズム)——相異なる信仰や一見相矛盾する信仰を結合・混合する宗教観の一面です。

二十六聖人に対する慰霊と、ここまで歩かせて貰った全ての人々に対し誠の感謝を捧げました。非難に値するあらゆる言葉を以って来ても表されないくらいの弾圧・迫害を受けたこの聖人の道中と、ここでの^{ざんさつ}惨殺を想像する時、憐みの心（惻隠の情）でただ感激・感涙するのみでした。もちろん私はいずれかの団体に入信しているという宗教の純粋な信者・信徒ではありません。私の菩提寺は天台宗でその檀徒ではあるが、その他を含めた宗教団体とはまったく関係はありません。全ては私の自己流拝礼の仕方です。四国へんろの結願・満願以来の感激を味わいました。本当に良かった、嬉しかった！！

ここでこの西坂と強い関連を持つ国宝大浦天主堂について、同ホームページより要約し簡潔に記しておきます。これには、二つの歴史的な出来事と係りがあります。

一つ目は、ここで取り上げている1597（慶長元年）年の日本二十六聖人の殉教です。大浦天主堂は、正式には、「日本二十六聖殉教者聖堂」といい、1862（文久2）年に26人の殉教者たちが聖人に列せられたのを受け、捧げられた教会です。そのため、大浦天主堂は殉教の地である西坂に向けて建てられています。位置関係は前記図-15bのとおりです。

二つ目は、1865（慶応元）年3月の「信徒発見」です。大浦天主堂が1864（元治元）年に完成し、翌年2月から公開が始まったその約一ヶ月後の3月17日に、浦上の潜伏キリシタン達が名のりを挙げて、信仰の告白をしたことからプティジャン神父は大いに喜び、その経緯をフランス、ローマに報告しています。

b.同聖人と“つばき（椿）”

前記同巡礼Mapの最後の方のページから要点を抜粋して記述します。

・・・ この二十六人の殉教の後、長崎のキリシタンは、二十六本の十字架が立ててあった穴に常緑樹のつばきを植えた（諸説あり）と云われています。そこで、「日本二十六聖人“長崎への道”」の巡礼シンボルマークとして、図-17のとおり『つばき』を設定しました。



図-17

（その意味の一部を端的に記述して見ます。）

- ◎1 赤い花は殉教の血
- ◎2 26のめしべは殉教者数
- ◎3 4枚の葉は十字架
- ◎4 葉の緑は復活
- ◎5 外輪の水色は渡って来た川や海

私は、吾が庭にも植えているつばきに対しては、それらとは別に次のような思い入れがあります。

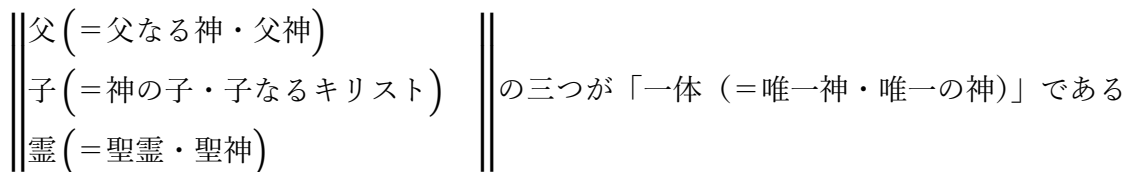
花卉の個々がヒラヒラと散るのではなく、^{がく}萼を本体に残して丸ごとポトリと落ちるのです。徐々に弱々しくなると、しおれて老衰に傾きつつ、醜くなってからしかたなく落ちるのではなく、生气盛りの勢いを保ちながらポトリと落ちる、花（命）の一瞬の絶命です。満開・最高潮で絶命です。「ぴんぴんころり」そのものです。引き際の良さです。悪徳企業・悪徳政治家や地域社会のムレ・グル（何とか会の一切の集団＝タマリ）の長に多く見られる、その地位に連綿としがみ付いて離れない醜態とはまったく正反対です。そこで、椿を私のsyncretism(シンクレティズム)宗教観の象徴とすることにしました。

(7) 到着日の数値との機縁

私が10月7日（日）に京都を出立し、11月2日（金）到着ですから、27日目でした。

- *1；聖人の一人は刑の執行日を金曜日にして欲しいとの要望を出したが、結局願いが受け入れられませんでしたが、私が刑執行当該地の西坂に到達したのは、まさに金曜日でした、代受苦の誉れを授かったようで巡り合せに嬉しくなりました。
- *2；27日目の27に不思議な機縁を感じました。27=26+1 ですが、26聖人に1人の私が出た数字（26+1=27）の表れ方です。
- *3；「 11月2日（金）13時11分 」の数字を分解して見ます。

a] 1と2と3で構成されています。3は三位一体に繋がります。三位一体とは、



とする教え、だそうです。（詳細はここでは省略）

b] 11月2日の11+2=13 で、時刻13時の13に表れます。

ところで、「イエス・キリストが磔刑（はりつけ）されたのが13日の金曜日と云われ、クリスチャンは忌むべき日である」というのは俗説で、これは正しくない、とのことです。さすれば、13と金曜日が表れたということは、イエス・キリストにちなむものであり、私にとってはとても幸運であります。

c] 11月の11は11分の11に表れました。1が4つ表れました。（前者）1は優秀な・最高位の1番に繋がるが、（後者）4は日本人が忌み嫌う死（=4）に繋がります。つまり、ここに両極（前者=天、後者=地）の意味合いのことが同時表出したのです。両極（正反対）を合算 {1+(-1)=0} すれば0（零・ゼロ=全一^{ぜんいつ}）、それはすなわち中庸あるいは無（空）に繋がります。

両極混在、支離滅裂、自由奔放、自由自在の域、躍動^{いき}の粋を感じます。

.....

このような数字との巡り合せは、予め意図して設定したものではありません。結果の偶然、偶然の結果です。偶然は天の力・神の力・二十六聖人の力による昇華があって必然に至ったと思っています。とても有り難く思っています。

(8) あそび心～背中への表示

これまでのスルーハイク（一気通貫歩行旅）の経験から、ザックを背負いダブルストック・ノルデックウォーキングスタイルには必ず関心を示す人がおり、声を掛けられます。そこで必ず聞かれるのは、

{ ①あなたの住まいはどこなのか（どこから来たのか）？
②どこまで行くのか（目的地は）？ } という二つです。

そこで、この度は、スタート時、図-18aのように手拭いに「日本二十六聖人 長崎への道（京都→長崎） 徒歩スルーハイク」と記入し、ザックに張り付け（ピン留め）しました。『赤いタオル』は二十六聖人が左耳を削がれて血だらけになりながら歩いたが、それにあやかって「真っ赤な血」になぞらえたものです。

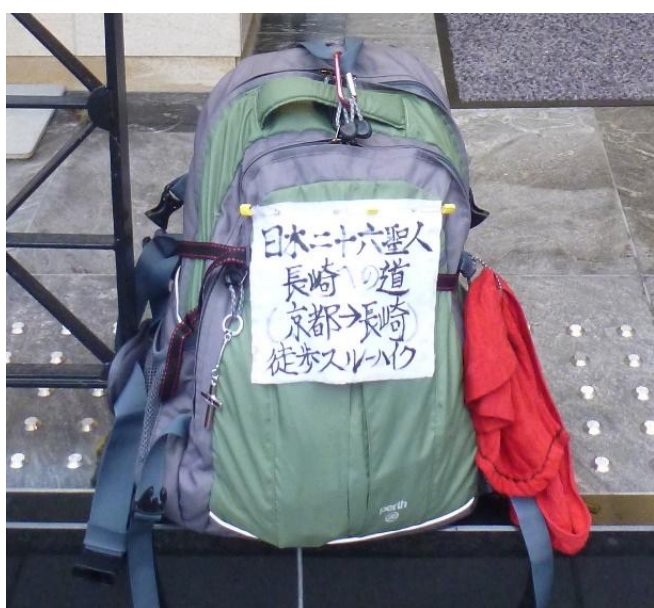


図-18a



図-18b

しかしこれにはハプニングがあって、6日目の10月12日（金）宿で気付いたのですが、文字がザック生地まで溶けて真っ黒となり読めなくなっていました。これまで、10・11日の2日間（2回）雨に祟られ雨具を着用したが、濡れた雨具と布が擦れて使った墨が溶けてしまったのでした。

そこで、翌日13日（土）、100円ショップで手拭いとマジックを買い求め、宿で作り直しました。それが図-18bの「日本二十六聖人（京都→長崎）徒歩スルーハイク」であります。

最後まで背負い切り、西坂に到着した時の後ろ姿は図-19のとおりでありました。

予想通り、前記①と②を何回となく問われました、その時はくるつと廻って背中を見せるのです。“それナアニ？”となり、二十六聖人についての講釈（PR）からやがては対等の会話に発展しました。数人は名前だけは聞いたことがあるといい、同聖人悲劇の物語を知っている人もおりました。なお、背中（ザック）へのこのような表示は初めてであります。



図-19

3.渡船利用

4箇所（4回）ありましたが、図(表)-20のとおりです。回数は当時と同じですが、航路が少し異なります。二十六聖人の渡船については前記同「巡礼Map」に基づき、その航路距離は、パソコン上でカシミール3Dソフトを使用し国土地理院電子国土（地形図）の中で算出したものです。私はもちろん携行したGPS記録です。当然ですが、今は実際に定期運航されている航路を利用しました。

		区 間		渡船日	距 離
		出	入		
1回目	二十六聖人	唐戸港	大里港	1月27日	約4.6km
	私	〃	門司港	10月27日	約2.2km
2回目	二十六聖人	戸畑港	若松港	1月28日	約0.6km
	私	〃	〃	10月27日	〃
3回目	二十六聖人	志賀島港	博多港	1月31日	約10.6km
	私	志賀島港→ 西戸崎港	〃	10月29日	約13.5km
4回目	二十六聖人	<small>そのぎ</small> 彼杵港(河口)	<small>とぎつ</small> 時津港	2月5日	約23.9km
	私	長崎空港	〃	11月2日	約14.3km

図(表)-20

以下、その4個所の場所について、図-21から図-24まで図示するが、赤色実線は私の実査GPS軌跡（航路）、紫色の点線は二十六聖人の想定軌跡（航路）です。



図-21



図-22



図-23

4. 終りに

(1) 裏読み

『日本二十六聖人 京都から長崎』の行程を色々と想像しながら実際に歩き、その振る舞いに憐れむ心情が溢れて、そして訳もなく感動しました・・・が、次のような裏読みも湧きました。

※1 ^{きしゅりゅうりたん} 貴種流離譚 (本来高貴な生まれの子女が、事故や陰謀により陥った不幸な境遇で育ちながら、旅・冒険を通して活躍する物語)の源義経物語が想起され、そのことと共通的に同情の念が湧きました。二十六聖人はいろいろな身分の人達であったが、いずれにしても時の秀吉政権の中枢にいた訳ではなく、いわゆる庶民でありました。



4回目渡船：長崎空港(彼杵)～時津

図-24

※2 若い優秀な青年がオーム真理教に入信したことが想起されました。信仰が深刻になると神（教祖）の教えに命を預ける（捧げる）ことに快感を覚えるようになるのではないかと。一面、一神教に偏ることの副作用（怖さ）というものを感じました。

※3 キリスト教においては、自殺は大罪であるというが、武士の切腹（自死）が浮かびました。他殺（殺人）事件と謂われる中で、二十六聖人の命の捧げ方は、自死に昇華して切腹に通じるものがあるような気がしました。日本武士の構えと類似する所を感じます。30歳の時に大名として日本で初めて洗礼を受けて戦国時代を生き抜いた大村地方（現長崎県）の領主大村純忠^{すみただ}は、首に十字架を架けて戦場に出ていると言われています。キリスト教と雖も他人の殺戮を認めているのか？

（2）嬉しかったこと

その1；

沢山ありましたが、ここでは私に対する差し入れのことについて取り上げます。

姿を見ると、後ろにはザックを背負い、いろいろなグッズ——GPS機器、カメラ、スマホ、ボイスICレコーダー、マスクケースなど——をぶら下げているものですから関心を寄せてくれる人が時々現れます。この長崎への道においては、3人から差し入れがありました。一人はお菓子、一人はミカン、そして3人目が買い物袋いっぱいの飲食物です。この人との係りで次のようなことがありました。

その2；

24日目の10月30日（火）の宿泊先唐津第一ホテル手前での出来事でした。ビジネスホテルに宿泊する場合の7割は近くのコンビニで夕食を買い求め部屋でゆっくり食べるのを楽しみとしています。この時は、手前のコンビニで買い求めるのか、先に歩を進めて外食するのか少し揺れました、結局はコンビニに立ち寄り夕食分を買いました。ところが、コンビニを出たらレストラン（ガスト 唐津店）が目に入ったのです、夕食分の買い物が終わっているのに、“ここに入れ！”という天の声が下り、引き込まれるように入ってしまったのです。その時に接客してくれたのが店長さんでした。気さくな方で少し会話することも出来ました。会計を済ませた帰り際に、図-25のと通りの買い物袋一杯に入れた差し入れがあったのです。



図-25

ホテルでビール・日本酒は全部頂き、焼酎は半分を飲み残りは翌日の宿で飲み干しました。むぎ甘栗と干し梅は3日間ほど持ちました。キャラメルはとても多かったので、半分を同ホテルフロントの窓口担当におあげ（お裾分け）しました。一度にこんなに沢山の飲食物のお接待を頂戴したのは四国へんろを含めても初めての一度だけでした。店長さんはその会社の社長さんでもあり、全国チェーン店のトップ自ら第一線現場の接客です。低姿勢で心温まる接客を賜った店長さんの姿勢から、直ぐに次のようなことが浮かんで来ました。

その3；

私のサラリーマン現役時代は、同じ会社に41年長勤め、その間子会社に3年間出向も経験して来ました。その子会社勤務時代のことで、本体親会社から退職出向していたある取締役は1日中デスクに座り、新聞・雑誌・インターネットで日暮しの体でした。自分の部門に係る経営理念や方針、中長期計画を自ら策定することが出来ません——全体最適^{てい}的視点、全方位視点を踏まえ、論理的・体系的に自分の考え方を文字に起こせない——でした。下っ端の私が敢えて書かせた内容は幼稚で目を当てられませんでした。

した。国内の4年生超有名大学を卒業し、学歴偏重主義の親会社ではとんとんと出世したものの、口先と指先だけで人を動かす、実務は全部を部下に指示し、させたものだから、そのような環境を離れたら実務の何一つ出来なかったということなのです。その方とは下部組織を含めて4回目の職場でしたが、私は子会社では、内心ではすっかり軽蔑していました。

このお店の会話の中で直感したのですが、その店長さんと某取締役とは、人間性が雲泥の差（店長さん＝雲＝天、某取締役＝泥＝地）を感じました。

(3) 芋づる式脱線

ここで浮かんで来た続きがあります。様々な組織の中で「何とか〇〇長」という肩書がついた管理者になると、人が・人柄が・態度が、変わるという現象についてです。企業であれ、地域コミュニティの何とか会や趣味の会であれ、とにかく集団（タマリ）に就いている長のことです。とても偉くなったように豹変します。真実は“〇〇長に就いた”なのに、“自分は〇〇長に成った”と錯覚するのです。“就いた”は、組織・団体・集団の活動・事業・運営に直接従事した時の統率のために権限を行使することを言います。権限行使のその時とは、目的遂行の拘束を伴う有限の時間帯です。ところが、人間は勝手なもので、権限行使は、俺に付着・^{こうちゃく}膠着し、四六時中、所有物になったのだ、と独善してしまうのです。本当は、“〇〇長の権限（権力）はデスク・立場に付与されたものであります。デスク・立場とは抽象的な無機物です。よって、個体の人間の性格付け変更のために”権限“が溶けるという概念ではありません。

端的な例は、就業時刻を過ぎて、いわば退社後に、つまり、私的な時間帯に飲食・懇親に行ったとします、それでも、△△部長！、□□課長！ と呼び、呼ばれる関係——呼ぶ方は阿諛追従（おべっか）だが、呼ばれた方は当然のことと思ひ、傲慢がさく裂します。つまり、権力を勝手に盗み出す仕業です。

地域社会では、その快感のために延々と長にしがみ付く^{やから}輩が表れます。その長を外れても、退任しても、当時の長の快感が染み着いて、人を”口先と指だけ“で動かそうとする癖が出る人が多々います。しかし、そのような人は、喋った分だけ自ら実行出来ないのです、語った内容のその根拠について実践を以って証明出来ないのです。

もう一つ、コミュニティの何とか長で、真の無償の社会奉仕精神を持った人を探しましたが、お目に掛かっていません、何かと役員手当が低いとか、実に損得勘定・私利私欲の権化です。

実は、小心者の私如きが、会社人生41年長の中で、長にも就いた経験を持ち、先輩・同僚の沢山の長を見て来たものですから、そのような心理事情・人間模様はよく分ります。

ところで、世間では、前記、某取締役みたいな人、理屈先行非実行型の（口先だけでそのとおりに実行出来ない）人が大勢いるという噂を多々聞きます。私の地域にも^{はびこ}しっかりと蔓延っています。還暦を過ぎて、あの世逝きまでの余命が気になる歳になっても、そのような怪しげな何とか長が跋扈・暗躍する〇〇会に参加し、人間関係で他人の悪口・陰口ざんまい、論争しているような人を見るにつけ・聞くにつけ、「立派過ぎるお方！」——“過ぎたるは及ばざるが如し”（過ぎるのは及ばないのと同じだ、つまり、本当は立派でないのだ！）——と感心しています。

（ついつい愚痴で脱線してしまいました！）

(end)

Ⅱ__「 長崎市界限周遊散策 」 実施結果 の記録

正味 11 月 3 日（土）～同月 4 日（日）2 日間の行動記録です。

1.1 日目－11月3日（土）快晴／バスツアー

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、キリスト教禁教による宣教師不在の中で、神道や仏教などの日本の伝統宗教や一般社会と係りながら信仰を続けた潜伏キリシタンの伝統の証であり、12個所の構成資産となっています。

禁教期のキリシタン迫害について見て行くと、非人道・拷問・火炙り・残虐・過酷・残酷などの惨い仕打ちの言葉が沢山出て来ます。命をかけてまでも一途に信仰を守り通すのか、私の想像には及ばない強固な意志には驚くばかりです。同関連遺産12個所全部を回りたくらいですが、限られた時間の中でその12個所のうち何処に、どのような移動手段を使うか、ちょっと思案しました。その中の2個所、外海（出津集落と大野集落）潜伏キリシタン地区に行くバスツアー（図-1・図-2・図-3）を前日の11月2日（金）長崎駅中で知り、電話申込みによりこれに参加して来ました。



大沼 香 様

御旅行ご案内

長崎県知事登録 3-116 号 全国旅行業協会会員
長崎遊覧バスグループ

【企画実施】長崎遊覧トラベル(有)

長崎市赤迫 3 丁目 2 番 20 号 501

TEL 095-856-0200 FAX 095-857-1067

担当者 本田 誠司

総合旅行業取扱管理者 上田光昭

◎ツアー名

世界遺産ツアー “潜伏キリシタンの里そとめ”

行き先

長崎市そとめ地区 方面

最低催行人員 1 名 限定 24 名様まで 日帰り

月日	集合場所：長崎駅横大村ポート発着場前 9:25	昼食場所
11/3 (土)	<p>長崎駅 ～ 潜伏キリシタン文化資料館・・・黒崎教会・・・枯松神社 ～ 出津教会堂・・・徒歩・・・旧出津救助院・・・</p> <p>9:30 10:20~10:35 10:35~10:50 11:00~11:20 11:30~13:00</p> <p>昼食</p> <p>・・・徒歩・・・ド・ロ神父記念館 (ヴォスロール) ～ 大野教会堂 ～ バスチャン屋敷跡 ～ 遠藤周作文学館・・・</p> <p>13:00~13:40 14:00 ~14:20 14:30 ~15:00 15:20 ~16:00</p> <p>・・・夕陽が丘そとめ (休憩) ～ 女神大橋経由 ～ 長崎駅</p> <p>16:00 ~16:20 17:30</p>	<p>昼食場所 ヴォスロール</p> <p>(地産地消のラ ンチメニュー)</p>
	<p>旅行代金一人 8,500 円 (昼食・入場料含む)</p> <p>最低催行人員は 1 名 です。(実施日の 14 日 前に予約数が催行人員に達しない場合は中止いたします。)</p> <p>添乗員は同行いたしません。</p>	
	<p>実施日：2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月末までの毎週土曜日 (12 月 29、1 月 5 日は中止)</p>	

募集型企画旅行実施可能区域：長崎市・時津町・長与町・西海市・諫早市・新上五島町・五島市・天草郡苓北町

キャンセル料：旅行開始日前日に解除する場合旅行代金の 40%・旅行開始日に解除する場合旅行代金の 50%・旅行開始後の解除及び無連絡参加の場合は 100%

図 - 2

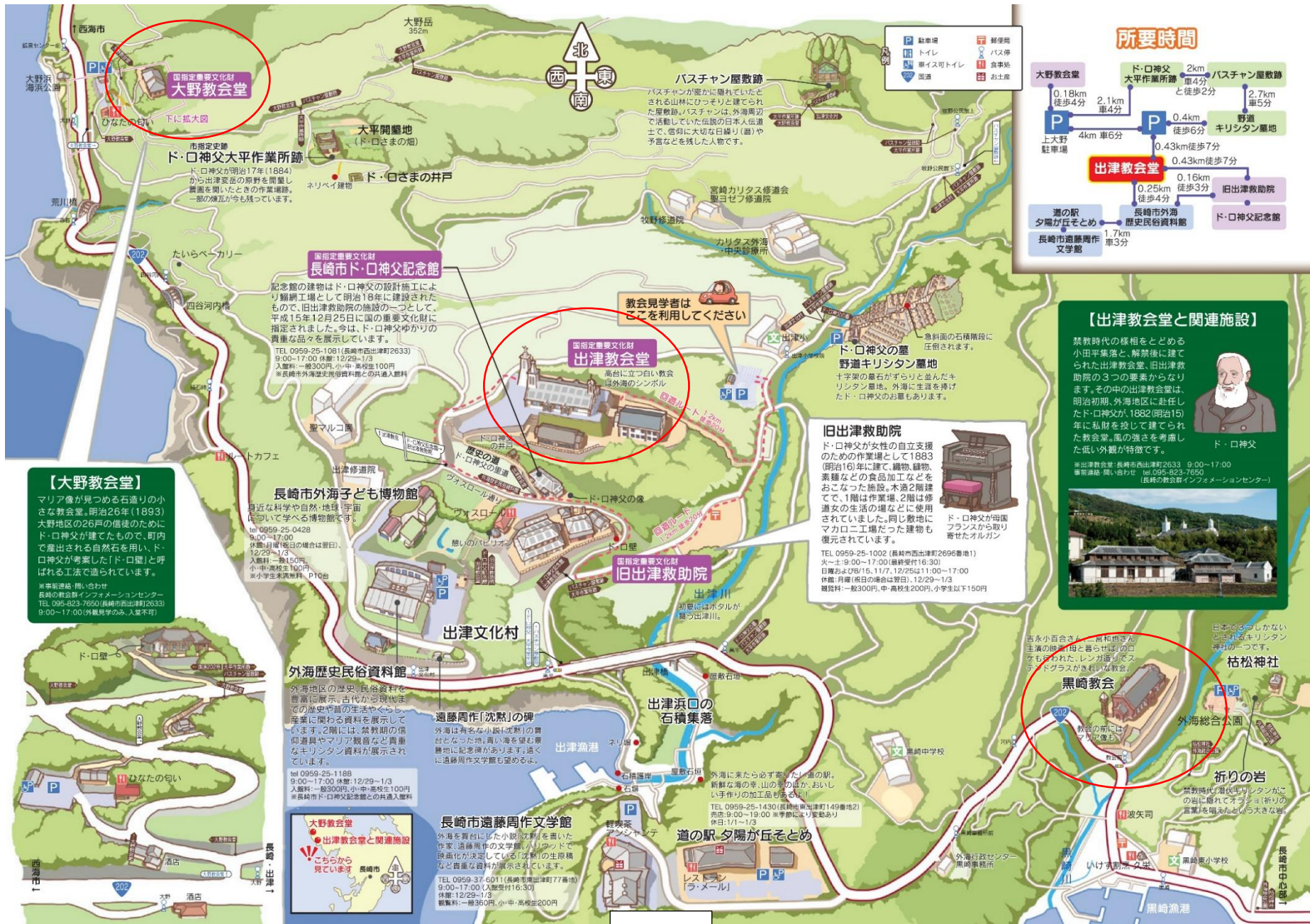


図-3

特徴的な処について記述します。

1] 枯松神社

キリシタンを祀った神社は全国には3箇所あるのみであり、その中の一つである「枯松神社」(図-4)を取り上げます。他の2箇所は長崎市内の「淵神社(桑姫大明神)」と東京都伊豆大島の「おたあね大明神」であるとのこと。

1614(慶長19)年に禁教令を出すと――これは江戸幕府による本格的な公式のキリスト教禁止の法令であった。――キリシタンに対する監視・取締りが一層厳しさを増した、その中であってもここ外海地区の信徒達は潜伏して信仰を守り、ことに黒崎地区のキリシタンは、秘かに枯松神社に集まりオラシヨ(祈り)を捧げ伝承して来ました。

この日は午後から同社のお祭りがあるということで、すでに大勢の関係者、観光客が周囲を取り囲んでいました。図-4はちょうど11時からのオラシヨ奉納の時間帯で、午後からは“みことば”の祭儀が開催される予定でした。

その日の祭りの結果についてインターネットに載っているので、要点を記述して見ます。

――第8回目を迎える今年の“枯松神社祭”では、カトリック教会の神父様による慰霊ミサ、天福寺の住職様による講演、旧キリシタンによるオラシヨ奉納が行われました。それは長い歴史の時を越え、宗教・宗派の違いを超えた祈りの祭でありました。――まさに「神・仏・キ」の合同祭です。何と素晴らしいことか！感激します。3人のお話を直接聞きたかったので残念です。

2] バスチャン屋敷跡

江戸時代、禁教令により外海地方の外国人神父全員が追放された後、日本人の洗礼名バスチャンという伝道者がこの地方のキリシタン達を指導したと云われ、役人方の追手から逃れるためにこの地(図-5)も含めて隠れ家を転々としたと伝えられております。

3] 教会

この時は、3箇所の教会を巡りましたが、日本の神社や寺院と違って、別の雰囲気があり、線香臭くなく、とてもきれいで清潔感があって素晴らしかったです。これら教会は、建設費のほとんどを外国人神父が無償提供し、少しの不足分を地元のキリシタンが拠出したという話を聞くに付け、定住し他人のために命を捧げた無償の愛の実践、その深さにただ頭が下がるのみでした。教会の特徴は、何と言ってもステンドグラス――ガラスに色彩を施し、鉛で接合した絵画や模様などを組み立てて窓や欄間などの装飾に用いたもの――です、普段は見慣れないので本当に有意義を感じ、誠に良かったです。



図-4



図-5

2.2 日目-11月4日(日) 快晴/長崎市内自由散策

図-6 のとおり、長崎駅併設ホテルを出発し長崎市内の関心ある個所を巡りました。一旦長崎駅前まで歩いた後に、同駅前の別のホテルに投宿しました。



図-6

前記のとおり、本年9月25日(火)~28日(金)にかけて妻と長崎(当地)旅行した時の立ち寄り個所(△)と、今回の私一人の立ち寄り個所(◆)を重ねて整理すると次のとおりです。

長崎平和公園(△◆)→爆心地公園(△)→長崎原爆資料館(△)→浦上天主堂(△)→稲佐山展望台(△;快晴の満月下)→出島(△)→長崎国際観光コンベンション協会(◆)→キリシタン関連資産インフォメーションセンター(◆)→オランダ坂(◆)→大浦天主堂(△◆)→グラバー園(△)→孔子廟・中国歴代博物館(◆)→唐人屋敷跡(◆)→新地中華街(△◆)→崇福寺(◆)→長崎亀山社中記念館(◆)→坂本龍馬像(◆)→眼鏡橋(◆)→シーボルト通り(△)→長崎歴史文化博物館・長崎奉行所跡(△)→福濟寺(◆)→本蓮寺(◆)など

3. 終りに

参考までに、この日11月4日(日)の移動歩行距離は約16kmでした。なお、路面電車やバス・タクシーは一切使わずに徒歩で散策しました。

一応、行きたくて希望した所は廻ったのですが、急いだ感がありました。歴史が濃く奥深いという率直な感じでした。最低もう一日加え、3日間位滞在すれば長崎市内をじっくり観察出来たのかもしれない。2022年暫定開業予定の九州新幹線長崎ルートがあちらこちらで工事をしていました。長崎駅周辺再整備事業も動いておりました。5年後の2023年頃にもう一度長崎に行ってみたくくなりました。

吾が山形県もいいが、日本の色々な所に行っているが、他都市と比べて、長崎はどこか違う、坂の町と海と異国情緒、やっぱり、それは、江戸時代の鎖国体制下でもここだけが開港され、外国の入口・出口となっていたからであろうと思います。異文化との交流窓口の歴史は、後世長く開明的な雰囲気を感じました。長崎の歴史は単なる一都市のことではなく、まさに日本の歴史に大きく係って来たのです。

私は、日常は自宅の周りだけでウロウロしているが、人間関係のしがらみで心が錆び付きます、年に数回は檻^{おり}を飛び出したいくなります。まさに、異文化を吸収したくなるのです。

Ⅲ_「 旧長崎街道スルーハイク 」

正味 11 月 5 日（月）～11 月 11 日（日）6 連泊 7 日間（歩行距離 234km）

の

実施結果の貫^か（完）^ん歩^ぼ記録

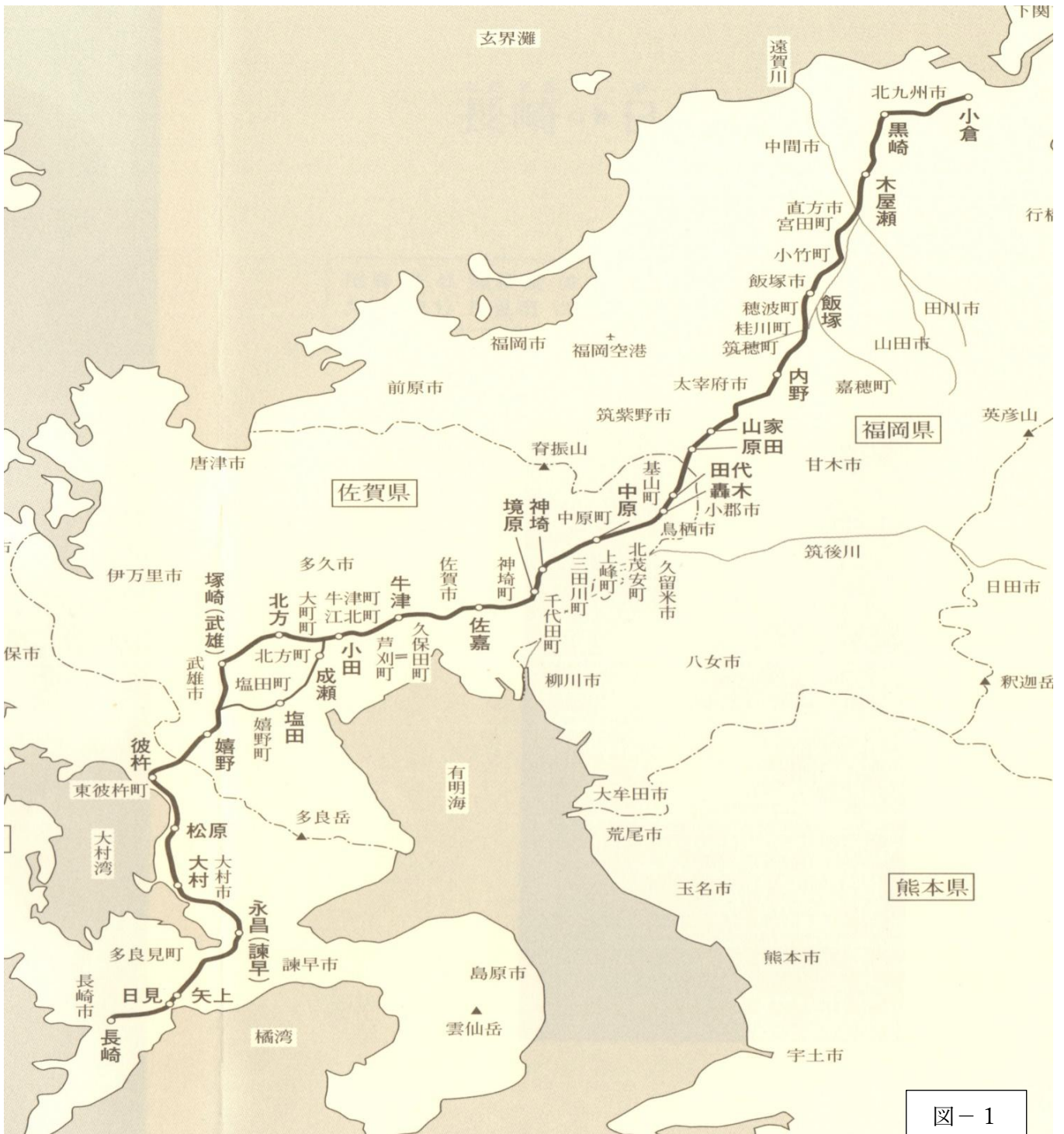
1. 「旧長崎街道」のスルーハイハクに至った事情・背景

以下の理由に鑑みて、「旧長崎街道」を是非とも歩きたいという決意を持ったのです。

(1) 鎖国下の交易道

11月3日(土)・4日(日)の長崎市界限散策を終えて、帰宅の方向です。何もしなければ、長崎駅(長崎空港)から山形(山形空港)へ列車(飛行機)を繋ぐだけですが、それではつまらない、「旧長崎街道」をスルーハイイクすることにしました。当初計画に入れていたものです。

松尾卓次著「長崎街道を行く(葦書房)」より拝借した図-1の旧長崎街道は、江戸時代に整備された脇街道の一つで、豊前國小倉(福岡県北九州市小倉北区)の常盤橋を基点として、肥前国長崎(長崎県長崎市)を結ぶ路線である。約230kmの道程で、途中に25の宿場が置かれた。京都側は小倉の基点は常盤橋ではっきりしているが、長崎側は、どこかははっきりしたことが分っていない。長崎の拠点は西役所(江



戸期の長崎奉行所)、出島橋など諸説あるが。現在「長崎街道ここに始まる」と刻字された始点の石碑は、シーボルト通り桜馬場の入口にある。――

長崎は、江戸時代における鎖国体制下唯一開港されて(別記の【関連-4】を参照)発展して来ました。いわば異国との文化・人・物の交流や通商の窓口でありました。

それ故に歴史上の人物(別記の【関連-5】を参照)がここに集まりました。名立たる・著名な歴史上の人物が、長崎⇄大阪・京都⇄江戸との間で往来しました。往時は官道という一本道でしたが、それが「旧長崎街道」です。さらにはオランダ人や中国人の江戸参府への参上経路として、交易品や献上品の運搬にも用いられました。それ故国際色も豊かで華やかな人物往来があった街道です。その残り香を嗅ぎたい、この眼で見たいとなったのです。

- ☆1 オランダ商館責任者である商館長=カピタンが、日蘭貿易「御礼」のため毎年正月に江戸に参府した。
- ☆2 筑前・筑後・肥後・肥前・薩摩の諸大名の参勤交代、長崎奉行(1年交代で江戸から長崎へ派遣)や西国筋郡代(さいごくすじんたい)(九州における江戸幕府直轄領の民治を司る行政官たる代官;代官所は豊後国日田―大分県日田市―に置かれた)の交代の道であった。キリスト教の匂いを嗅ぎながら、不行き届きの者がいないか、睨みを効かせながら跋扈したであろう。
- ☆3 オランダ商館のドイツ人医師シーボルトは江戸に赴き、第11代征夷大將軍徳川家斉に謁見した。
- ☆4 蘭学を志した福澤諭吉は2回ほど長崎に往来した。
- ☆5 明治維新に大きな影響を与えた若い頃の吉田松陰は、江戸から長崎へ留学し「長崎紀行」を残した。

(2) 像が歩いた道

旧長崎街道は、人物往来の他に特異なものとして、像のことがあります。細部は、別記の「関連-5」に記載します。

特に、8代將軍 徳川吉宗が直々に注文した象が、享保14年(1729)3月、長崎を出発し、この長崎街道を歩き、京都、そして江戸までおよそ80日間歩いたというのです。事前に内容を知るに付け、像を追跡する気分を想定(夢想)し、その道を歩きたくなったのです。

(3) 歩きたくなった直接的理由

前記あの日本二十六聖人を西坂で処刑後、長崎奉行配下の役人は、必ずやその頃京都伏見に居城していた秀吉に対し報告に行ったと思うのです。[長崎]→旧長崎街道→[小倉]→旧山陽道(旧西国街道)→[大阪]→旧京街道→[京都]の道のりです。その役人の気持ちを想像しながら歩きたかったからです。

2. 私の実査

実踏査のルートは、図-2における紫色実線トラックログのとおりです。

11月5日(月)から11月11日(日)までの6連泊7日間となりました。総歩行距離234km、1日平均33.4km、1日平均歩行時間8時35分、歩行時速3.9kmとなりました。

通過県は、長崎県、佐賀県、福岡県の3県でした。前出松尾卓次著「長崎街道に行く」には「約230kmの道程」と書かれているが、私の実査は234kmでニアリーイコールでした。

(1) ルート

私が実際に歩いた道筋は、基本図-1のとおりでした。11月5日(月)6時31分、長崎駅前のホテルから歩き始め、シーボルト通りに踏み入れ、図-3の「長崎街道ここに始まる」と刻字された始点の石碑を確認し、日見峠へと進んで行きました。

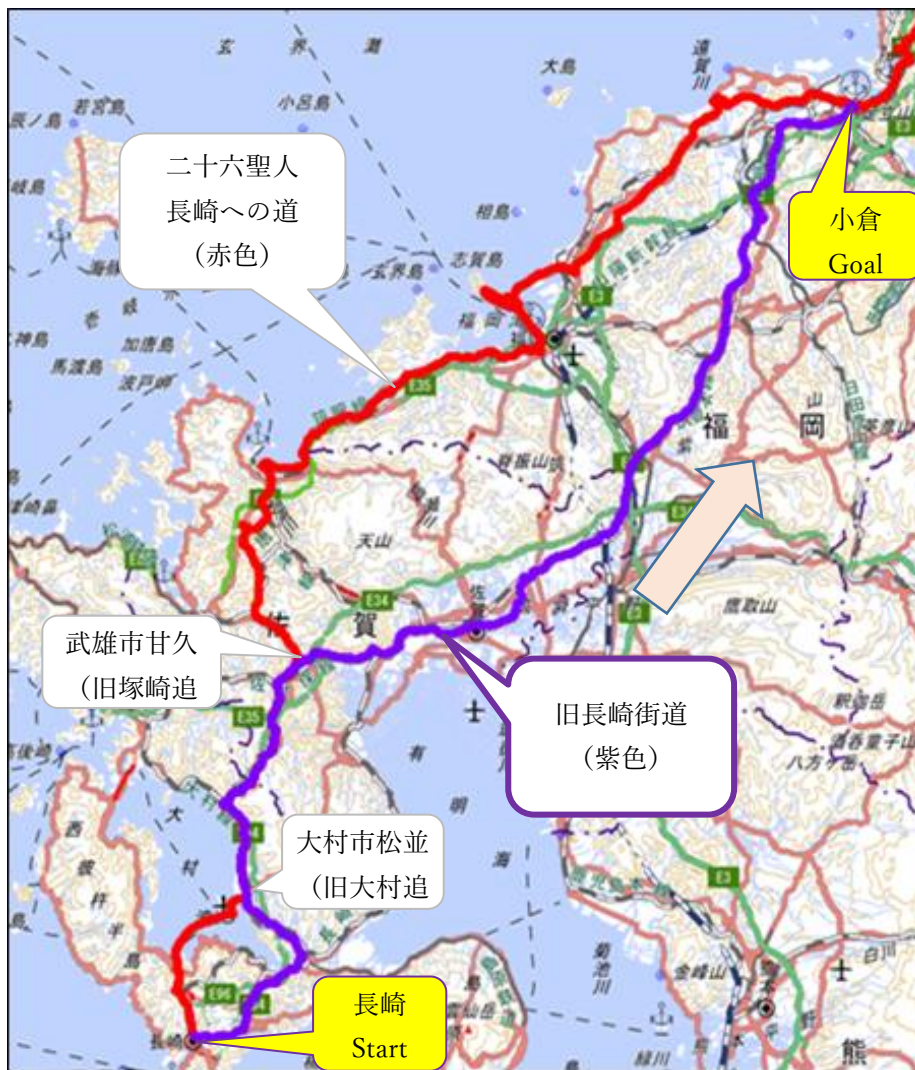


図-2



図-3

なお、大村市松並（旧大村の追分）から武雄市甘久（旧塚崎の追分）の間は、二十六聖人の歩んだ道筋と重なりました。

(2) 印象に残った峠

徒歩を進める中でいくつかの峠越えもあったが、昔、一番の難所は冷水峠（図-4）標高 287m と云われました。この峠には今も大きな郡塚石が建立され、首無し地藏尊や石畳が残されており、唯一古道・街道らしい雰囲気を楽しみました。

図-5は、冷水峠の頂より少し下った所（図-4のここ）です。

なお、短いが長崎外れにある日見峠の急坂もなかなかのものでありました。

2012(H24)年9月27日(木)日本海側新潟県糸魚川発→10月16日(火)太平洋側静岡県御前崎着の「塩の道」スルーハイ



図-4

クにおいての、標高 1,600m 超の峠越えがあったことからすれば、お茶の子サイサイの感じでありました。



図-5

(3) 常盤橋

図-6は「旧長崎街道」スルーハイク終点です。現地の説明版によれば、江戸時代の初期、小倉の城下町くるわの東曲輪（主に町人の居住区）と西曲輪（主に武士の居住区）くるわを結ぶ重要な橋として架けられた。この

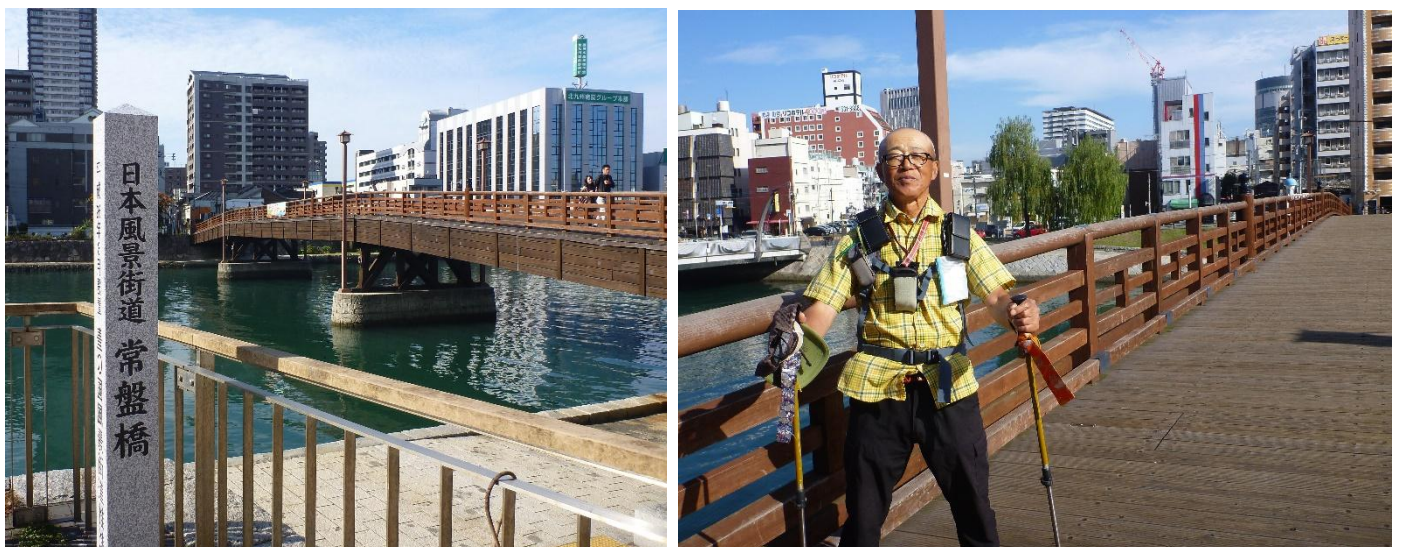


図-6

西勢溜（群衆で賑わう広場）が長崎街道の基点（起点）となっており、この橋周辺は幕府役人や旅人の宿が並んでおり、大いに賑わった、ということです。

この常盤橋に私は11月11日(日)の14時丁度に到着し、ここに全ての「長崎遊学 ZigZag 紀行」を終了し、感無量となりました。数字の1が4つ並んだのです。日曜日であり、大勢の市民や観光客が繰り出していました。

ところで、この常盤橋は、東（江戸・京都・大阪）から見れば、旧西国街道（旧山陽道）から九州に入った時の、旧五街道に次ぐ重要な街道とされた旧長崎街道や旧唐津街道との合流点（起点／結合点）となります。また、長崎向けに「日本二十六聖人“長崎への道”」（前記報告済）を歩いた時の通過点（10月27日・土）と合流したことになります。

（4）結果表出の数字遊び

日数は11月5日（月）から11月11日（日）までの7日間でした。7は“なな”、長崎（ながさき）の“な”と一致しました。1が4つ並びました、 $1+1+1+1=4$ でもあります。

この並びは、“ I _ 「 日本二十六聖人“長崎への道” 」 ”の[本文 27 頁]中段に記述したとおりの表れ方ですが、ここでは別角度から見て見ます。1と1から、ひとつの1を横にすると『+』、つまり交点が生まれ、縦方向と横方向、指向・志向が90度ずれている、捩じれているものの合流点です。それがダブルで表れました。一方向の一方的な見方に固執するな、という私に対する注意喚起・警告のマークアップなのです。交差点は合流点でもあるが、離散点でもあります。「会うは別れの始め」「会者定離」「愛別離苦」などの訓えを読み取ります。

キリスト教旧約聖書の創世記によると、神は7日間掛けて天地を創造した、とあるが、旧長崎街道スタート直前の11月3日(土)・4日(日)の2日間にかじったキリスト教のことを引き摺って歩いたために、その縁で7日間となったのであろう。また、3日(土)・4日(日)の数字 [$3+4=7$] でもある、などと強引に意味付けしています。

3. 終りに

その1；そのような歴史上の人物は、どのような姿で、何を思いつつ歩いたのだろうか、どこで休息したのだろうか、何を目的にこの道に入ったのだろうか、などとあれこれ当時の人々の気持ちを想像しながら歩きました。道の状態や樹種や森の勢いの状況は当時と今では違う処もあろうが、山の形や川筋は大きくは変わっていないと思うのです。往時の旅人と時々会話しながら、大自然の息吹を共有しながら歩く思いになりました。特に、これまでの歴史街道スルーハイクや四国へんろと違って、長崎特有の潜伏キリシタン存在の歴史と係る人物の往来が重なって、とても楽しい有意義な旅路となりました。

ベトナム像が歩いた訳ですが、別記の【関連-5】にあるとおり、当時のぬかるんだ道の補修や橋の補強などで大騒ぎしたというのはまったく頷けます。一部に急峻な（急坂）道の上り下りもあったであろう、何しろ徳川將軍の注文ですから関係者は想像以上の難儀をしたのであろうと思いました。てんやわんやの状況を想像しながら歩くことが出来とても楽しくなりました。

その2；色んな地域を見て来たが、環境美化のことです。京都からの二十六聖人殉教道、長崎市界限散策、旧長崎街道を歩いて来たが、岡山県から西側、山口県、広島県、そして九州（福岡県・佐賀県・長崎県）はどこに行っても綺麗です。とにかく、街中や人里を離れると道端にはごみが散乱しがちですが、ほと

んど目に付きませんでした。福岡県には公共用地の空き地などに総じて公衆トイレがありました。それから、徒歩へんろで回った四国も綺麗でした。

ところが、大阪近辺はとにかく街中が汚い、公衆トイレが少ない、犬の糞放置が目にあまる！東京も綺麗な方だと思っていたが、九州などと比べると汚い方であることが分かりました。吾が東北も汚い、街中を少し外れると道路沿いはゴミゴミの違法投棄オンパレードです。

これは地域の長年に培われた社会風土の問題です。醇風美俗の風土は、立派な人が一時期トップに就いたからといって一朝一夕に出来上がるものではありません。理屈で成るものではありません。地域一人ひとりの庶民の日常生活の良心の積み重ね、長年の継続した美意識累積の結果なのです。しかしです、国のトップでありながら腐れ切った安倍晋三総理のようないかさま人物が国、行政のトップあるいは地域コミュニティの長に就いていると、社会モラルハザードが起きて地域はズタズタ、デタラメが横行し救いようがなくなります。庶民とトップとの関係については、鶏と卵の关系到酷似し色々ありますが、いずれにしても、社会への影響力という面からは、相応の権力を持つトップの人間性如何大なるものがあります。

< 補完資料 >

2018（平成 30）年《長崎遊学 Zigzag 紀行》；「日本二十六聖人“長崎への道” & 旧長崎街道」スルーハイクに関連する補完資料の章です。

- 【 補完-1 】 「日本二十六聖人」に係る歴史について
- 【 補完-2 】 二十六聖人発祥の地について
- 【 補完-3 】 日本二十六聖人の名簿について
- 【 補完-4 】 長崎の歴史について
- 【 補完-5 】 旧長崎街道を往来した歴史上の人物と象について
- 【 補完-6 】 キリスト教の教えから学ぶことの一部について
- 【 補完-7 】 積読本について
- 【 補完-8 】 GPS の記録性能について
- 【 補完-9 】 ^{わたくしの}大香のこの歳の生き方
- 【 補完-10 】 新時代に向けた取り組みを如何に？！
- 【 補完-11 】 ピックアップ写真

【 補完-1 】「日本二十六聖人」に係る歴史について

『日本二十六聖人記念館』の祈り 公式『巡礼所』総合ガイドブック (日本二十六聖人記念館監修／長崎文献社)、長崎県世界遺産課のホームページ等を参考に要点を記述します。

<¹発端>

- 日本全国をほぼ手中に収めた豊臣秀吉は、1587(天正 15)年 6 月に「伴天連追放令」を發布した。その内容は外国船の来航(南蛮貿易)は認めるが、キリスト教は禁止するものとした。
- 1596 年、スペイン船サン・フェリペ号が台風に遭い土佐の浦戸に漂着した。その時、配下の役人はこれまでの慣習に従い乗組員の命を助ける代わりに積み荷を没収しようとしたが争いとなる。現地に足を運んだ五奉行の一人増田長盛から「スペインはキリスト教徒を日本で増やし、その後この国を征服する意図がある。」との報告を受けた秀吉は激怒した、乗船していたフィリポ宣教師ら^{ぼてれん}を捕縛した。さらに京都奉行であった石田三成に命じ、関西で布教活動を行っていたフランシスコ会やイエズス会の宣教師 6 人と日本人キリシタン 18 人の計 24 人を捕縛した。なお、[本文 14・15 頁]に記載しとおり、実質は 26 人であった。

<²見せしめのための「長崎への道」>

- なぜ、京都で処刑せずに、わざわざ長崎へ送った(歩かせた)のか。当時の長崎は、禁教令下にあつたにも係らず南蛮貿易のためにキリシタンの町として栄え、宣教師の居住が黙認されていた。そのために、長崎の人々への警告があつた。また、秀吉のキリスト教禁教の強い意思を人々に広く知らしめるために歩かせた。

<³長崎は西坂に到着>

- 33 日掛けて 1597 (慶長元) 年 2 月 5 日長崎の西坂に到着した。真冬の中、左耳を削がれた上で両手を後ろに縛られて、かつ裸足で、約 1 か月に渡り、約 1,000km を過酷な環境下で歩き通した、残酷な仕打ちを受けながら誰一人として脱落せずに、狂気じみた言動を発することなく歩き通した。むしろ寄って来る人々に説教しながら歩いて来た。

<⁴同地で処刑>

- 4,000 人を超える群衆(祈り、讃え、泣き、歌い、叫び・・・)が集まる中、同日午前 10 時、二十六人は、街と港に向かって一列に並んで建てられた木組みの十字架に(【関連-3】のブロンズ像の順で)張り付けられて手足と首を鉄の輪で止められ、体を固定するために腰を紐で結ばれた。
- 「パライソ(天国・楽園)、イエス、マリア」と祈りが唱えられる中、2 人組で槍を持った役人が両側から胸を刺し始めた。次第に祈りの声が小さくなって、正午には全てが終わった。ここに二十六人は殉教に身を捧げた。
キリスト教信仰を理由にした日本最初の処刑(殉教)であった。
- 彼らは、キリストの教えの実践者として、特に貧しい人や病人の世話などを行って来た人達である。人々に愛を与える信仰の灯を絶やしてはならないと、自ら尊い命をイエス・キリストに捧げることをよしとして犠牲になることを受け入れたのである。彼らにとって殉教は信仰を守り続ける誓いの証であるとしむしろ喜びであった。
- 職業は、伝道師・説教師・僧侶・武士・医師・職人・商人など様々であった。出身地としては、外国人 6 人の他、日本人は、京都・大阪・尾張・伊勢・摂津(大坂、兵庫)・備前(岡山)・長崎・五島の

人々であった。

- ◇ その後キリシタンに対する迫害は、信仰を棄てさせること（棄教）を目的に、ますます残酷さ・苛烈さを極めていった。

<⁵聖人として列聖>

- イエズス会のポルトガル人宣教師のルイス・フロイスは、この26人の殉教に係る見聞情報を克明に記録し、それらはローマに送ったことにより、ヨーロッパを中心に世界中で大きな反響を生んだ。
- 殉教から265年後の1862(文久2)年6月8日、ローマ教皇ピオ9世は26人の殉教者を聖人として列した。

<⁶大浦天主堂>

- 幕末の頃の日本は混乱の中で改革期を迎えており、外国との通商条約を締結し鎖国体制が終焉した。それに伴いキリスト教礼拝堂建設を認められたことから、この頃に来日したパリ外国宣教会のプチジャン神父は二十六聖人に捧げるために、西坂に向かい合うように大浦天主堂を建設し、列聖から3年後の1864(元治元年)年に完成した。

<⁷二十六聖人記念碑(レリーフ・ブロンズ像)>

- 岩手県生まれの現代具象彫刻第一人者舟越保武氏の手により約5年を費やし、同人列聖から100年後の1962(昭和37)年に完成した。高さ5.6m・幅17m。各像は等身大で制作された。
- 26人は腰に布を巻いただけの姿で殉教したが、意図的に(あえて)着衣の姿にした。
- 同氏は、2002(平成4)年2月5日、二十六聖人に導かれるように帰天した。2月5日は二十六聖人が長崎は西坂に到着し処刑された月日である。

<⁸日本二十六聖人記念館(資料館)>

- 1962年(昭和37)年、上記レリーフ・ブロンズ像と同じ敷地内で、その後方に、隣接する聖フィリポ教会とともに建設された。
 - 二十六聖人の遺物やフランシスコ・ザビエルがポルトガル王国へ出した手紙などの資料を展示している。
- (※) 私は9月末と合わせて2回入館したが、ほとんどが外国人(欧米人?)であった。

<⁹熱く胸を打たれる純真性・高潔性>

○ 聖人の一人 14 歳の聖トマス小崎が母に宛てた別れの手紙に触れる。宿において見張り役の目を盗んで書いた手紙は、一緒に捕縛されていた父の聖ミゲル小崎〔当時 46 歳〕に託されたが、京都に届ける術がなく、ミゲルはこれを懐に持ったまま殉教した。殉教者の遺体は 80 日間晒し者にされたが、その後、血に染まったこの手紙がミゲルの遺体の懐から発見されて人々の涙を誘った。

なお、図 H-1 (私が撮影) は、三原城跡 (広島県三原市) に建てられている聖トマスのブロンズ像である。



図 H-1

“ 神の御助けによって、この数行をしたためます。

長崎で処刑されるため、そこへ向かう神父と私達は、先頭に掲げた宣告文のとおり、24 人 (手紙を書いたこの時はまだ 2 人は加わっていなかった。) です。私と父上ミゲルのことについて御安心下さいますように。天国で近いうちにお会いできると思います。神父様達がいなくても、もし臨終の時、犯した深い罪の痛悔があれば、また、もし主イエス・キリストから受けた多くの御恵みを考え、それを認めれば救われます。現世ははかなきものですから、パライソ (天国) の永遠の幸せを失わぬように努めて下さいますように。人々からのどのような事に対しても忍耐し、大きな愛徳を持つようにして下さい。私の弟達マンショとフェリペを未信者の手に渡さぬように御尽力下さい。私は我が主に母上たちのためにお祈り致します。私の知人の皆様に宜しくお伝えください。重ねて申し上げます。貴女が犯した罪について深く痛悔をもつようにして下さい。これだけが大切なことです。アダムは神に背いて罪を犯しましたが、痛悔と償いによって救われました。

・・・安芸国三原の城から、十二番の月の二日 (1597 年 1 月 19 日) … “

○ 聖パウロ三木の最後の説教

京都から長崎までの殉教の道で、捕縛の身でありながら、寄って来た人々に毎日説教した同三木の最後の説教は、ここ西坂の十字架の上からであった。

“ ここにおいでになる全ての人々よ、私の言うことをお聴き下さい。私はルソンからの者ではなく、れっきとした日本人であってイエズス会のイルマンである。私は何の罪も犯さなかったが、ただ我が主イエス・キリストの教えを説いたから死ぬのである。私はこの理由で死ぬことを喜び、これを神が私に授け給うた大いなる御恵みだと思う。今、この時を前にして貴方達を欺こうとは思わない。人間の救いのためにキリシタンの道以外に他はないと断言し、説明する。キリシタンの教えが敵及び自分に害を加えた人々を許すように教えている故、私は国王 (秀吉) とこの私の死刑に拘わった全ての人々を赦す。王に対して憎しみはなく、むしろ彼と全ての日本人がキリスト信者になることを切望する。 ”

<¹⁰聖人のその後>

以下は「長崎オラショの旅 (小崎登明著/聖母文庫)」より拝借する。

「―― 26 人が殉教するや、見物していた人々は竹矢来を押し破って乱入し、したたる鮮血を衣に受けたり、十字架を削ったり、衣服の裾を切り取ったり、血で染まった土を掘ったりして、一瞬刑場内は混乱した。

聖人の遺体は 80 日間、西坂に晒されていた。言い伝えによると、普通の罪人の屍にはカラスが群がるの

に、この時は一羽も寄り付かず、また夜になると聖骸から光が出ていたという。

そこで役人達は遺体を粗末な木棺に収めて、長崎港外の海に沈めてしまった。ところが、信者達は夜釣りをしているふうを装ってこれを引き上げ、いちいち聖人の名を付けて遺体を分けて隠した。その後、信者が国外に追放される時に、遺骸を持って去ったのである。

・・・松次郎という人が明治2年に大浦天主堂のプチジャン司教と共にマニラに渡った。そこである日、昔、流されて来て当地で栄えたという日本信者の集落に行って、そこで二十六聖人の遺骨や衣片、手紙などを発見することが出来た。その遺骨と衣片が大浦天主堂に保存された。――」

<11 殉教とは>

「殉」は「したがう」と読む。「殉教」とは「教えに従うこと」である。宗教上の信仰を貫き、そのために迫害されて死ぬこと。キリスト教の信仰や道徳を捨てるよりも、死を選んで神に命を捧げること。キリストは、時の為政者によって抵抗することなく十字架に掛けられ、人類の尊い犠牲となって民を救った。日本のキリシタン達は、外国宣教師（神父）から、そのような教えを通してこうした姿に触れた。

キリスト教では自ら命を断つことを禁じており自殺は大罪である。一方、病気や事故など思いがけずに死と直面した時、悲しみや苦悩に人々は抗^{あらが}う。そこに信仰が救いを与えてくれる。神様が与えた試練として、厳しい現実を受け入れよ、と。自らの力ではどうしようも出来ないことを受け止めて謙虚に生きる。殉教の精神が伝えようとするメッセージである。

現実を直視し、不本意ながらもその時のありがままを、その時の死を受け入れよ、というのは仏教に通じるものを感じる。果たして私は、あの世に逝くその時、「恨み・つらみ・憎しみ」で一杯になるのか、「感謝感謝、満足満足大満足」で一杯になるのか、どっちだろうか？。

【 補完-2 】 二十六聖人発祥の地について

その1；図H-2（赤色実線はGPS軌跡）の○で囲んだ当りは小川通^{どおり}牢屋敷のあった所、ここから引き回しがスタートした。図H-3の○で囲んだ当りは、聖マリア教会・病院（聖アンナ・聖ヨセフ）や学校等が立てられ、キリスト教の神父・フランシスコ会士・イエズス会士・信者らが、下層の人々・貧民・ハンセン病患者らを対象に活発に地域福祉活動や社会慈善事業を展開した地域でありました。



図 H-2



図 H-4



図 H-3

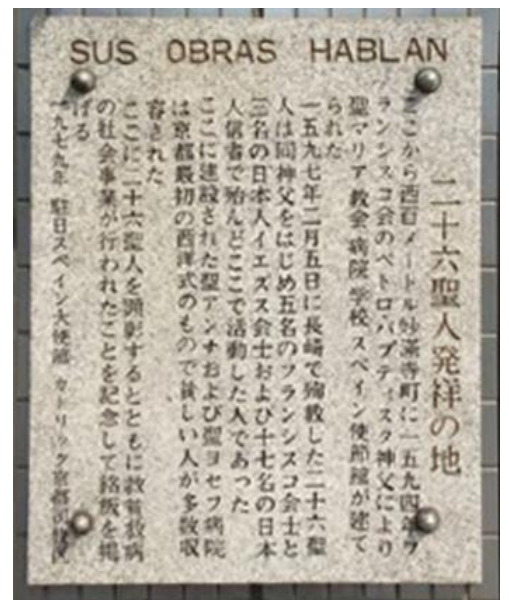


図 H-5 a

さて、私は11月7日(日)早朝宿を出で、京都市内引き回りコースを歩きつつ二十六聖人ゆかりの地・発祥の地にも立ち寄って確認した。図H-4は妙満寺跡地に立つ記念碑石柱であります。ただ、図H-3中の京都四条病院跡に掲示されている（た）という図H-5aのプレートは確認しないでしまったことから、いずれは訪れて見たいと思う。書かれている内容は妙満寺町に触れています。

その2；そのプレートについて「うさぎのブログ」（2013.09.01）より拝借・転写します。

中京区堀川通四条下ル東側に建つ京都四条病院の南入口の右手に「SUS OBRAS HABLAN 二十六聖人発祥の地」の銘板（図 H-5b）が掲げられています。SUS OBRAS HABLAN とはスペイン語で「彼らの功績を語る」という意味になり、そこには次のように記されています。

「——ここから西百メートル妙満寺町に 1594 年フランシスコ会のペトロ・バプティスタ神父により聖マリア教会病院学校スペイン使節館が建てられた。1597 年 2 月 5 日に長崎で殉教した二十六聖人は、同神父をはじめ

5 名のフランシスコ会士と 3 名の日本人イエズス会士および 17 名の日本人信者で、殆どここで活動した人であった。ここに建設された聖アンナおよび聖ヨセフ病院は、京都最初の西洋式のもので、貧しい人が多数収容された。ここに二十六聖人を顕彰するとともに救貧救病の社会事業が行われたことを記念して銘板を掲げる。 1979 年 駐日スペイン大使館 カトリック京都司教区 ——」

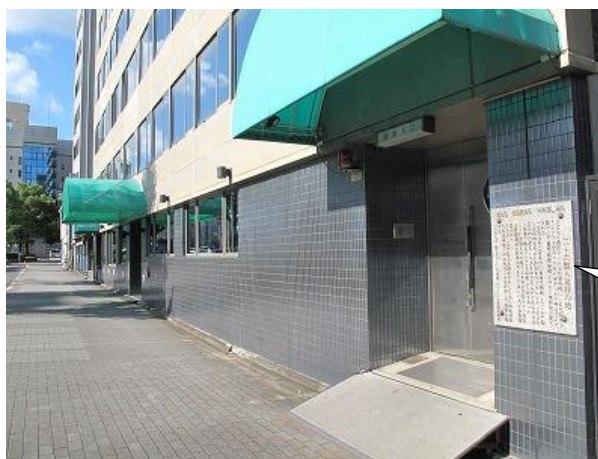


図 H-5b

プレート



①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖
表H-6	名 前	年齢	出身地	殉教までの経緯・エピソード																					
①	パウロ鈴木	49	尾張	若くして洗礼を受け、深い学識を持ったフランシスコ会修道士で、京都の病院の院長としても活動																					
②	ガブリエル	19	伊勢	京都奉行の家来だったが、洗礼を受けてフランシスコ会で神父らを手伝う。その姿を見た両親も受洗																					
③	ヨハネ絹屋	28	京都	網織物職人。外国人神父との交流 や兄の勧めで受洗																					
④	トマス・ダンギ	36	伊勢	大阪の薬屋。正義感強く、レオン鳥丸に導かれて受洗、フランシスコ会初の日本人修道士の一人																					
⑤	フランシスコ	46	京都	豊後の大名。大友宗麟の侍医で、朝鮮出兵を経て聖ヨゼフ病院で活動																					
⑥	ヨアキム榊原	40	大阪	医師を志すが、洗礼を受けて教会建設 や貧しい病人のために活動																					
⑦	トマス小崎	14	伊勢	ミゲル小崎の息子。マルチノ神父を手伝う信心深い少年で、大阪の病人のために活動。京都の牢で父と再会、母宛の手紙が感動的																					
⑧	ボナベントゥラ	不明	京都	幼い頃に洗礼を受ける。フランシスコ会でキリスト教の教理を学び宣教に活躍																					
⑨	レオン鳥丸	48	尾張	パウロ茨木の弟。京都の病院でハンセン病患者の世話をし、「神の聖役者」と呼ばれた																					
⑩	マチアス	不明	京都	別人マチアスの逮捕時に「私もマチアスです」と殉教を志願																					
⑪	フランシスコ・デ・サン・ミゲル	53	スペイン	修道士。フィリピンの病院で日本人患者と出会い、日本での布教を志す。1593年に来日後、貧民や病人を援助する愛徳の実践者として活動																					
⑫	フランシスコ・ブランコ	28	スペイン	メキシコで神父になりフィリピンへ。1596年にマルチノ神父とともに来日。京都で数ヶ月の学習の後、神の教えを説くことが出来るほど日本語が上達																					
⑬	ゴンサロ・ガルシア	40	インド	その後ポルトガル人修道士。16歳で来日後、フィリピンに渡り、バプチスタ神父とともに再来日。抜群の語学力で、神父が秀吉と調見する時に通訳																					
⑭	フィリッポ・デ・ヘスス	24	メキシコ	裕福な家に生まれる。フィリピンで修道士として活動し、神父になるためサン・フェリペ号でメキシコに向かう途中土佐に漂着。大殉教のきっかけとなる																					
⑮	マルチノ・デ・ラ・アセンシオン	30	スペイン	神父。メキシコからフィリピンに渡り、大阪の修道院長とし1596年に来日。語学に恵まれ、バウチスタ神父とともに日本で指導的な役割を果たす																					
⑯	ペドロ・バウチスタ	48	スペイン	神父。フィリピン総督の使節として1593年に来日し、日本のフランシスコ会の基礎を築く。京都と大阪で修道院と病院を造り、日本の指導者として活動																					
⑰	アントニオ	13	長崎	中国人父と日本人母の子として生まれ。イエズス会に入会し、後に京都のフランシスコ会でキリスト教の教理を学ぶ																					
⑱	ルドビコ茨木	12	尾張	<u>最年少者</u> 。レオン鳥丸とともに貧者や病人の世話など修道院で働き、神父が捕まると、自らも捕まえるようお願い																					
⑲	ヨハネ五島	19	長崎	五島列島の生まれ。イエズス会の活動を手伝っていたが大阪で捕縛																					
⑳	パウロ茨木	54	尾張	武士。修道士となり、貧者や病人の世話をし、宣教に尽力																					
㉑	パウロ三木	33	摂津	安土セナリヨ第1期生。熱烈な修道士として長崎や大阪で活動																					
㉒	デイエゴ喜斎	64	備前	<u>最年長者</u> 。仏教徒になった妻と離縁し、大阪のイエズス会会堂で働きながら宣教																					
㉓	ミゲル小崎	46	伊勢	弓矢師。宣教師の説教を聴いて洗礼を受け、京都や大阪で修道院の建設などに協力。息子のトマスとともに殉教																					
㉔	ベトロ助四郎	不明	京都	当初捕縛はされなかったが、殉教者の世話をするため付き添ったが、途中で自ら殉教を志願																					
㉕	コスメ竹屋	38	尾張	刀研ぎ師。大阪の修道院で伝道士として活動中に捕縛																					
㉖	フランシスコ吉	不明	京都	大工。長崎に送られる殉教者に同行を願い、途中で自ら殉教を志願																					

【 補完-4 】長崎の歴史について

長崎市の歴史年表を基礎に加除修正を加えて図(表)H-7のとおり整理して見ました。

図(表)H-7			
時代	和 暦	西 暦	できごと
室町	天文 4 年	1549 年	イエズス会宣教師フランシスコ・ザビエルが鹿児島上陸
	天文 19 年 8 月	1550 年	同ザビエル一行は肥前国平戸に入り初の宣教活動
	元亀元年	1570 年	長崎開港
	元亀 2 年	1571 年	ポルトガル船初めての入港、町建て始まる(6 か町)
安土桃山	天正 8 年 4 月	1580 年	大村純忠、長崎 6 か町と茂木をイエズス会に寄進
	天正 15 年 6 月 19 日	1587 年	豊臣秀吉、伴天連追放令を出す
	天正 16 年 4 月 2 日	1588 年	豊臣秀吉、イエズス会知行所を没収し、長崎を公領(直轄地)とし、鍋島直茂(肥前佐賀城主)を代官とした
	文禄元年	1592 年	豊臣秀吉、寺沢広高(肥前唐津城主)を長崎奉行とし置く
	慶長元年 12 月 19 日	1597 年	キリスト教宣教師と信者の二十六人を西坂で処刑
江戸	慶長 10 年	1605 年	江戸幕府、長崎を天領(幕府直轄領)とする
	慶長 17 年 3 月 21 日	1612 年	江戸幕府、最初の禁教令(1614 年に本格化・厳格)
	寛永 3 年	1626 年	キリスト教徒を改宗させるため、絵踏みを行う
	寛永 12 年 5 月 28 日	1635 年	日本人の海外渡航と帰国を禁止、外国船の入港地を長崎 1 港に限定
	寛永 13 年 5 月 10 日	1636 年	出島完成、ポルトガル人を収容し市中雑居を禁止
	寛永 16 年 7 月 5 日	1639 年	ポルトガル船の日本渡航を禁止(鎖国体制構築開始)
	寛永 18 年 6 月 18 日	1641 年	平戸のオランダ商館を出島に移す(鎖国体制完成)
	正保元年	1644 年	最後まで生き残っていた宣教師小西マンション殉教
	元禄 2 年 4 月 15 日	1689 年	唐人屋敷完成
	文政 6 年 7 月 6 日	1823 年	ドイツ人シーボルトが蘭館医として着任
	安政 6 年 5 月 28 日	1859 年	長崎・神奈川・箱館 3 港で露英仏蘭米に貿易を許可
	安政 6 年 8 月 23 日	1859 年	グラバー来崎
	元治 2 年 1 月 24 日	1865 年	大浦天主堂落成・献堂、“信徒発見”
	慶応元年 5 月	1865 年	大浦天主堂での信徒発見、坂本龍馬亀山社中をつくる
明治	明治元年	1868 年	1 月 25 日(慶応 4 年 1 月 1 日)
	明治元年	〃	浦上四番崩れ第 2 段(明治新政府が 3,400 人を流罪)
	明治 6 年 2 月 24 日	1873 年	キリシタン制札(高札)撤去の太政官布告
	明治 22 年 2 月 11 日	1889 年	大日本国憲法公布(制限付き信仰の自由)

二百六十年余りの禁教下

江戸幕府は外国人を来航禁止、日本人の出国禁止や対外貿易を管理・統制・制限し、いわゆる鎖国体制下でも長崎の出島だけに絞って、貿易のみを許可していました。(なお、特例はここでは除外)

【 補完-5 】「旧長崎街道」を往来した歴史上の人物と象について

インターネット「街道歩きの旅 (<https://kaidoaruki.com/index.html>)」などを参考に整理して見ます。

a) オランダ商館関係

ケンベル、シーボルト、ツンベルク、フィッセル、レフィスゾーン、ズーク、ブロムホフなど。

b) 蘭学、医学関係

蘭学を学んだ平賀源内、緒方洪庵^{こうあん}、高野長英^{げんたく}、大槻玄沢^{さんぼく}、稲村三伯^{りょうたく}、前野良沢、工藤平助など。

c) 文芸（絵画・詩文）関係

司馬江漢^{しばこうかん}、頼山陽^{たのむらちくでん}、田能村竹田^{ばいかん}、菅井梅閑など。

d) 藩士・軍人関係

幕末の藩士、吉田松陰、坂本龍馬、河井継之助^{つぐ}、西郷隆盛、大隈重信、乃木希典^{まれすけ}、大田南畝^{なんぼ}など。

e) その他

伊能忠敬^{ただたか}、高山彦九郎、林子平、三条実美^{さねとみ}、種田山頭火など。

f) 異国の珍獣

象、キリン、ラクダ、オランウータン、ロイアルト（ナマケモノの一種）、ヤマアラシ、トラ、鷲、孔雀、七面鳥、ヒクイドリ、青インコなど。

特異な像について、長崎県文化振興課のサイトより拝借し、以下に要点を記述して見ます。

.....

江戸時代までに、異国の象が日本へとやって来たのは計7回。室町時代の1408年、若狭の国(現在の福井県)に、インド象を乗せた南蛮船が到着したのが最初である。その後、大友宗麟・豊臣秀吉・徳川家康へと外国各国から象のプレゼントが贈られた。さて、日本中に大ブームを巻き起こしたのは、5回目の来日で長崎へと到着した2頭の象であった。徳川吉宗に献上される象は、長崎街道から江戸へと長い旅をした。8代将軍 徳川吉宗が直々に注文した象は、発注から2年後の1728(享保13)年6月13日、唐船に乗って長崎にやって来た。ベトナム生まれのオスとメスの2頭の象は、唐人屋敷の中で飼育されていたが、残念ながらメスの象はまもなく死んでしまった。翌1729年3月、生き残ったオスの象は、いよいよ吉宗のいる江戸へと長崎街道を出発した。象の飼育係とともに、体重が3トンもある巨体と長い鼻を揺らしながらゆっくりと長崎街道を行進した。将軍様に献上される象に不備があっては大変と、街道沿いの宿場は大騒ぎ！ 道の石・ゴミ拾いや象の飲み水・大量な食料の準備はもちろん、橋を補強したり、川にはイカダを組んだりといった作業が、関係の街道沿いで一斉に行われた。

小倉の常磐橋を通過し、4月に京都へ到着。「広南従四位白象」という位を授かった象は天皇と謁見し。まだまだ道のりは続き、江戸へと向かい浜御殿（現在の浜離宮）に到着し、吉宗と見合ったのが5月。この象の旅は約1,200km以上、およそ80日に亘る旅であった。その後は浜御殿で飼われた白象様。初めて

見る巨大な象の飼育も大変。一日に食べる量は、米を八升、あんなしの饅頭^{まんじゅう}を50個、ダイダイ（ミカン科）を50個…とペロリと平らげる大食漢。10年以上も浜御殿で飼われていたが、ある日、飼育係が象に殺されるという事件が起こった。払い下げになった象は、百姓の源助さんが中野に建てた象舎で世話をしたが、江戸の見世物にされ、ちょっと悲しい余生…、1年後には死んでしまった。一説によると死亡した原因は栄養失調とも云われた。

【 補完-6 】キリストのおしえ 教 から学ぶことの一端について

本の中から、“なるほど”と理解・納得した処を私のために整理して見ました。

参考にしたのは、「はてしなき展望・キリスト教入門の書（小林有方著／聖母文庫）」の中から3点です。キリスト教限定ではなく一般的・普遍的に通じる訓えを読み取りました。

(I) 「・・・神は限り無く、次の三つの要素から絶対『唯一』のお方である、無限・完全無欠のお方である、という・・・」

- 神の『永遠性』～この世のもの全ては時間で限られる。例えば、私達は何十年か前は存在していなかった、また、何年か経つと、みな死に絶える。しかし、神は時間という限度に関係ないから、始めも終わりもなく常に存在している。
- 神の『超越性』～この世のもの全ては場所（空間）に縛られ、ある一定の場所にしか存在することは出来ない。しかし、神は限りない霊であるから広大無辺の大宇宙も神の中に存在するものである。
- 神の『内在性』～それと同時に、またそれとは逆に、天地万物一切の中に神が潜んでいる。
なお、この神の『超越性』と『内在性』は同時存在であるから神の『遍在性』ともいう。

世の中には、地域コミュニティのムレ・グル等タマリ（諸々の集団、何とか会）の長となって、傲慢になっている人が多々います。たかが小さな地域で威張るようになります。言葉先行で実行なし、言っていることとやることにチグハグの矛盾だらけ、そういう人に対しては、面従腹背の眼で冷たく凝視し、内心は軽蔑して信用しません。所詮、人間は善悪入り混じっているもの（仏魔同居）であり、信用・信頼の対象にはなり得ません、まさに、『永遠性』『超越性』『内在性』をあまね遍くお持ちの神様こそが、私の賞賛・賛美の対象です。この3要素（性質）は日本古来の古神道の八百万の神様（天神地祇）の神通力、仏教の仏様の持つ仏威仏光とまったく同格・同等であると思っています、いずれも等しく参拝・拝礼・参詣の対象にしています。したがって、ましてや地域タマリの長などの言動に感動することはなく、取るに足りません。表面的な社交辞令で適当にあしらっています。

（・・・こう言う私も一時タマリの長的な立場にもあったが、・・・自重自戒の至り。）

(II) 「・・・他人に向けて注ぎ出る本当の愛とは、善人だからとか、愛するだけの価値があるから、ではなく、他人がどうあろうとそれに係りなく、ただ自分の意志を以って、その人の幸せのために、その人に向けて働きかける行動の愛を意味する、という・・・」

(III) 「・・・他人を許すということは、言葉を変えれば、他人を裁かぬことです。この世に生きる限り、神のみまえに罪のない人は唯の一人もいないのです。数々の罪の汚れ——おご驕り、虚栄、虚飾、憎しみ、そね嫉み、復讐の思い、忘恩、貪欲、肉欲、邪欲など——と後ろめたさが自分自身を告発して止みません。この世は、そのような人と人とが生き合っているところなのです。誰一人他人を裁く権利など持ち合わせていない人達が寄り合っている世界です。・・・」

「人を裁くなかれ（新約聖書 マタイ7章1～5節）」

私が思うに、“誰一人他人を裁く権利など持ち合わせていない人達が寄り合って生きている世界”というフレーズにまったく同感、感激・感動します。神の十戒中の第五戒で禁じられている中傷・^{あざけ}嘲り・侮辱・^{ののし}罵りなどは、いわゆる他人に対する悪口・陰口の声となって表れます。別の言い方をすれば、悪口・陰口は、自分と他人との相対比較から出る汚れた^{ひが} ^{ねた}僻み嫉みの心が他人を裁いている心理です。つまり、自分より優れている他人を蹴落とすための捻じれた^{あこぎ}阿漕の深層心理なのです。一番醜い貧弱な心の表れなのです。そう！悪口・陰口は精神的殺傷であり、極めて犯した罪は重いと云わざるを得ません。

例えば、相撲の優勝者とオリンピック卓球の金メダリストでどちらが、偉いかとか、ピアノコンクール優勝者と野球の優勝チームでどちらが優れているか、などと優劣を比較して論ずることはしません。評価の基準が違うからです。基準は恣意的に如何様にでも^{あまた}数多設定可能であります、故に比較のしようはなく、普通は比較論評しません。

しかし、世俗の地域社会では、数人が集まると、男女ともに必ずや目前にいない人、その場にいない人の人物評論（悪口・陰口）が始まります。人間はそれぞれ得意・不得意があり、長短を持ち合わせているのが人間ですから、一面だけを見て、人物評価は出来ません。自分より何か優れている他人の^{もの}・^{こと}に対する羨望の眼が、感情のままを以って相手を裁こうとするのです。私はそのような場は嫌いです。人間に欠点（罪・穢れ・^{とが}咎）があって、それはお互い様なのです。自分だけは完全無欠の人格だ、などと勘違いするために他人の悪口・陰口を言うのです。よって、“あれは頭が良い”とか“あいつは醜い”というならば、100歩譲って、その人なりの評価（価値）基準を明確に宣言・公言してから発言すべきです。普通はその基準を一々言わないから感情的対立に発展、しては、恨みつらみが残ることになります。

中には、居ぬ他人を徹底的に^{しご}扱き下ろす人がいます。あなたはそんなに立派なのか??、「上には上がある」、「総理大臣や天皇陛下でもなくせに、つまらぬ権力を振り回し、立派なことを言うな！」と嘲笑しています。以降は近付かないことにしています。

【 補完-7 】 積読本について

日本二十六聖人と旧長崎街道とキリスト教に関心を寄せた 2018(平成 30)年 5 月以降、同年 11 月末までに購入した関連書籍は図(表)H-8 のとおりです。ほとんどは「積読+斜め読み+摘まみ読み」です。頭に入っていない。

図(表)H-8		
本の名前	作者・執筆・監修	出版社
日本二十六聖人 長崎への道 巡礼マップ	カトリック「日本二十六聖人長崎への道」ネットワーク	カトリック中央協議会
「日本二十六聖人記念館」の祈り 公式「巡礼所」総合ガイドブック	日本二十六聖人記念館	長崎文献社
世界史の中の出島	森岡美子	〃
日本二十六聖人殉教記	ルイス・フロイス（結城了悟訳）	聖母文庫
日本二十六聖人物語	ゲルハルト・フーバー著	〃
長崎オラショの旅	小崎登明	〃
二十六聖人と長崎物語	結城了悟	〃
キリシタンになった大名	〃	〃
神への旅	岸英司	〃
はてしなき展望	小林有方	〃
人生の歩み	草野純英	〃
ロザリオのころ	松永久次郎	〃
日本二十六聖人殉教者への ^{れんとう} 連禱	高橋睦郎	すえもりブックス
キリシタン禁制と民衆の宗教	村井早苗	山川出版社
天下人の一級史料	山本博文	柏書房
ふしぎなキリスト教	橋爪大三郎×大澤真幸	講談社現代新書
高山右近	海老沢有道	吉川弘文館
潜伏キリシタン	大橋幸泰	講談社選書メチェ
カクレキリシタンの実像	宮崎賢太郎	吉川弘文館
潜伏キリシタンは何を信じていたのか	〃	角川書店
消された信仰	広野真嗣	小学館
日本人とキリスト教の奇妙な関係	菊池章太	角川書店
踏み絵を踏んだキリシタン	安高啓明	吉川弘文館
こんちりさんのりやく・ロザリオ	長谷川集平	トランスアート
カトリック教会の諸宗教対話の手引き	日本カトリック司教協議会	カトリック中央協議会
日々の祈り	〃	〃
カトリック教会のカテキズム	日本カトリック司教協議会	〃
キリスト教のとても大切な 101 の質問	J・H・クラウン	創元社
かくれキリシタン	後藤真樹	新潮社

沈黙 SILENCE	〃・篠田正浩	DVD
遠藤周作で読むイエスと十二人の弟子	遠藤周作芸術新潮編集部	新潮社
外海のキリシタンとド・ロ神父	オフィス ノンブル	長崎巡礼協議会
そうか なるほど！キリスト教	荒瀬牧彦・松本敏之	日本キリスト教団出版局
一番わかりやすいキリスト教入門	月本昭男	インフォビジュアル 研究所
26 聖人の殉教史「長崎への道」	結城了悟	日本二十六聖人記念館
日本二十六聖人記念館（所蔵品カタログ）	日本二十六聖人記念館	〃
煉獄にいる靈魂の驚くべき秘訣	シスター・エマヌル	いつくしみセンター
沈黙	遠藤周作	新潮文庫
深い河	〃	講談社文庫
秀吉の天下統一と高山右近の追放	ルイス・フロイス	中央公論新社
よくわかる潜伏キリシタン関連遺産	潜伏キリシタン研究会	エイティエル出版
讃美歌 21（本）	日本基督教団讃美歌委員会	日本基督教団出版局
〃（CD）～造られたものは～たたえよ主を	――	〃
楽しい讃美歌集（CD）	――	BMG ファンハウス
長崎県の歴史散歩	長崎県高等学校教育研究会	山川出版社
唐津街道を歩く	島村利彦	弦書房
長崎街道を行く	松尾卓次	葦書房
長崎の史跡（街道）	長崎歴史文化博物館	同左

【 補完-8 】 GPS の記録性能について

携行の状態は図 H-9 のとおりです、歩いた軌跡を客観記録するために GPS 機器を保持し、この度は同図のように、次の①②の二つを携行しました。

- ① (前)Covia 社の「スマートフォン FLEAZ Q u e +N (OS はアンドロイド / 『地図ロイド & 山旅ロガー』) アプリ——国土地理院地形図・google 地図・yahoo 地図搭載」を携行した。
- ② (後)GARMIN 社の「オレゴン 650 (国土地理院地形図搭載)」を携行した。GARMIN 社はアメリカの世界的に有名な GPS 専門メーカーである。

その記録の状況は、次のとおりとなりました。

図 H-10a は前者 Covia 社スマホの記録、図 H-10b は後者 GARMIN 社オレゴンの記録であります。

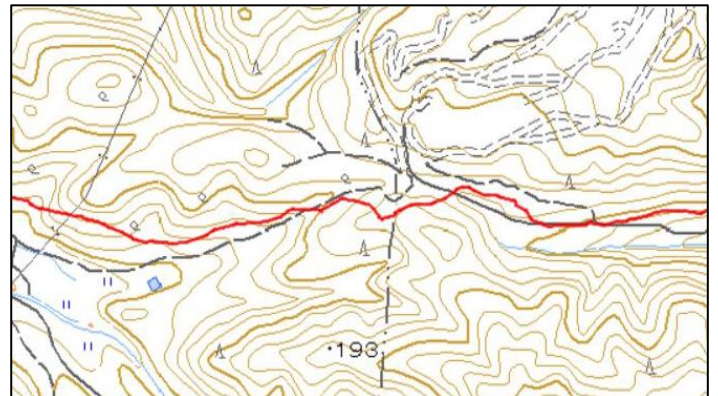
場所は兵庫県赤穂市「赤穂国際カントリークラブ (ゴルフ場)」の傍^{そば}を通過する道を歩いた時の記録です。スマホ記録は現地の実地の地形と一致します。ところが、オレゴンの方は、現地との確認においても道を大きく外れた所に記録しました。このような対比は、この他にも多数回発生しました。

ザック肩バンド取付収納ケースはまったく同じ材質のものではないが大きさはほぼ同じ、類似のものに収納した。両方とも GPS 電波感知部は本体の上(頭)部にある。スマホはケースの中にすっぽりを入れて頭部を蓋^{ふた}している状態、オレゴンは完全に本体頭部は開放状態です。また、同機はトンネルに入ると殆どロスト (補足を失う) 状態になった。携帯時の受信環境はスマホの方が悪い方だと思うが、地形図 (現地) との一致度はスマホの方が正確である。この違いは、根本的にハード (機器本体) とソフトの両面で差異があるような気がします。

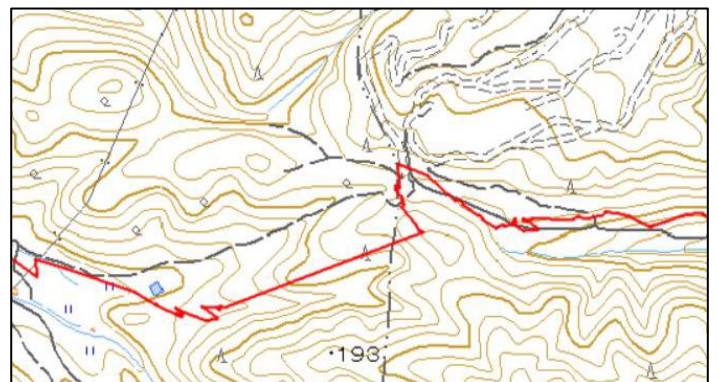
上記スマホ使用時は、機内モードに設定し電池の消耗を出来るだけ抑制しているが、帰宅後、さらに同スマホの SIM (加入権情報) カードを抜いて、自宅の周りでテストを行って見ました。その結果は図 H-11 のとおりです。この結果は何を物語るかというとうと、スマートフォンは通信契約をしないで GPS 専用機と見做して使用出来るということです。それは、ダウンロードした前記アプリ「地図ロイド+山旅ロガー」の成せる技 (オフラインで GPS 軌跡を自動記録) なのです。



図 H-9



①Covia のスマホ ; 図 H-10



②ガーミンのオレゴン ; 図 H-10b



図 H-11

電源のことに比較して見ます。前者スマホは 100V 充電式リチウムイオン電池 (2200mAh) です。実績から、スマホを日中は機内モード設定 (GPS 専用機) で使用したが、電源の最低残量は 60%であった。したがって、2 日間は持つ勘定になります。

他方、後者オレゴン は PANASONIC ハイエンドモデル 2,500mAh 単三電池 2 本で 12 時間位持ちます、2 日間は持ちません。このオレゴン機は本体に充電機能を内蔵しているので、単三電池の専用充電器を持参する必要はありません。また、万が一、電池切れの時は手軽にコンビニ等で調達出来ます、つまり、当座は商用 100V 電源を必要としません。

同オレゴンの前記のような不具合については、帰宅後に、ファームウェア更新とマスターリセット作業を行ったので、今後、どのような記録をするのか、追跡・検証することとしています。

【 補完-9 】 ^{わたくしの}大香のこの歳の生き方

対人間関係で、少し気持ちのずれが生じたら、相手から「あなたにあれだけ〇〇〇してやっただのに」と過去のことを並べ建てられました。過去にあった相手の私に対する一切の行為は、私からの見返りを期待した、私に行為を押し売りした、という損得勘定の偽善行為だったのです。そういう人には、詐欺的心理が内在・蓄在しており、それが露見したものと分りました。

ところが、四国へんろ徒歩巡礼を3回行ったが、よく話題に上がるのは“^(※)お接待”のことで、真の無償の愛というものを何回も経験しました。本当にすばらしかったです。

^(※) 地元の人達から“お遍路さん”に対して、物・労力・気持ち——人によっては現金も——の提供があります。こちらは心を込めて“ありがとうございます”の御礼を返して、それで貸し借りなしで、それでお別れです。後日になって、私はあなたにあれだけご馳走したのに、何も返礼品がなかった、などという見返りを求めるようなことは一切ありません。一期一会の対等互敬(恵)に華咲く至高の無償の愛なのです。

私はそのような不快で嫌なことがあったことから、日常生活における人間関係は、一期一会の心でしがらみ・腐れ縁を造らない・溜めない付き合い方をすることにしました。その心を図H-8のように「私のこの歳の生き方」と題名して創作詩を替え歌にしています。

K07 (8)於3回目四国へんろ) **大香^(わたくし)のこの歳の生き方** [原曲「大志(こころざし)」の替え歌]

お ---とこ --- ふりだーし ないないーぶーくー し
 ム ---レに --- はいらーず グールにーくーみせ ず
 い ---まの --- わたしーは たーか がーすーなつ ぶ
 で あーいは --- めぐるーが こーれ がーさーいご と
 あせみ ず --- なが--- し --- て みち --- は --- つ ---
 こーりつ --- こと--- く --- を おそ --- れ --- な ---
 おーりに --- かこ--- ま --- れ もが --- い --- て ---
 いーちご --- いち--- え --- の はな --- ま --- つ ---
 く ひとに --- たよるな ぐちるな なく な
 い おれと --- みなとは ちがう じゃ ない か
 る じもん --- じとうで さがして みれ ば
 り きょうの --- いちにち かしかり せず に
 きょうの --- ころを つみあげ て あすはーでつか い やまにーなーれ
 おれに --- こをたて こをみが く ゆめをーなかま に わがみーちーを
 ここに --- りょうしんの --- かみほと け おそれーおそれ よ けんきよなーれ
 きょうを --- なかじめ まくをと じ きょうがーさいこ う さようなーら
 あ --- あ --- やまにな れ
 し がら み つくら な い
 つ つ し み わすれ な い
 わ か れ を(が) うつく し <(い)>

1. ^{ムレ}群れに入らず ^{グル}グルに組みせず
 孤立・孤独を 恐れない
 俺と ^{みな}皆とは 違うじゃないか
 俺に“^こ独”を立て “^こ個”を磨く
 夢を仲間に 吾が道を
 しがらみ --- 作らない
2. 今の私は たかが砂粒
^お檻に囲まれ ^ももがいてる
 自問自答で 探して見れば
 ここに ^{良心}両親の神・^{はな}仏
 (真我)
^{おそ}畏れ^{おそ}畏れよ 謙虚なれ
^つ慎み --- 忘れない
3. 出会いは巡るが これが最後と
 一期一会の ^{はな}華祭り
 今日の一日 貸し借りせずに
 今日を中締め 幕を閉じ
 今日が最高 さようなら
 別れを(が) --- 美しく(い)

※1; 五線譜直下の歌詞は、原曲-(歌唱:坂本冬美/作詞:たかたかし/作曲:市川昭介)の1番目の歌詞
 ※2; 替え歌の詩は大沼香作 2018(H30)年6月30日(土)

図H-12

【 補完-10 】新時代に向けた取り組みを如何に？！

2018年は通年『平成』最後の年となります、3回目の四国へんろおよび長崎遊学 Zigzag 紀行を果たしました。問題は来年2019年です、『平成』は4月末日まで、5月1日には新元号が公布されます。この変更日を挟んだ両側の4か月（天候が安定する3月～6月）に何を（何処に行く）か。また、秋の天候が安定する10月～11月の2か月に何を（何処に行く）か。そして、通年新元号となる2020年は東京オリンピック開催の年でもあり、どうするのか。そして、2019年6月は、新元号初の誕生月で満69歳から70歳

になります。2019年は自宅に引き籠って黙っているのか、遊学・巡礼紀行に出かけるのか。様々な選択肢とその組み合わせが脳裏をよぎります。一生一度の人生、限られた命、太陽は地球を遍く照らし、時は万民に等しく刻みます。2019年を吾が人生にとっての重大な節目と捉えるか、いや次の年もあるさ！と捉えるのか。その年を二度と来ない大チャンス捉えて、肩に力を入れて全身を力んで何かに挑戦するのか。直前に出たところ勝負で暗中模索の儘突っ込むのか。……夢と希望が入れ乱れます。

これら全体像は図(表)H-13のとおりです。

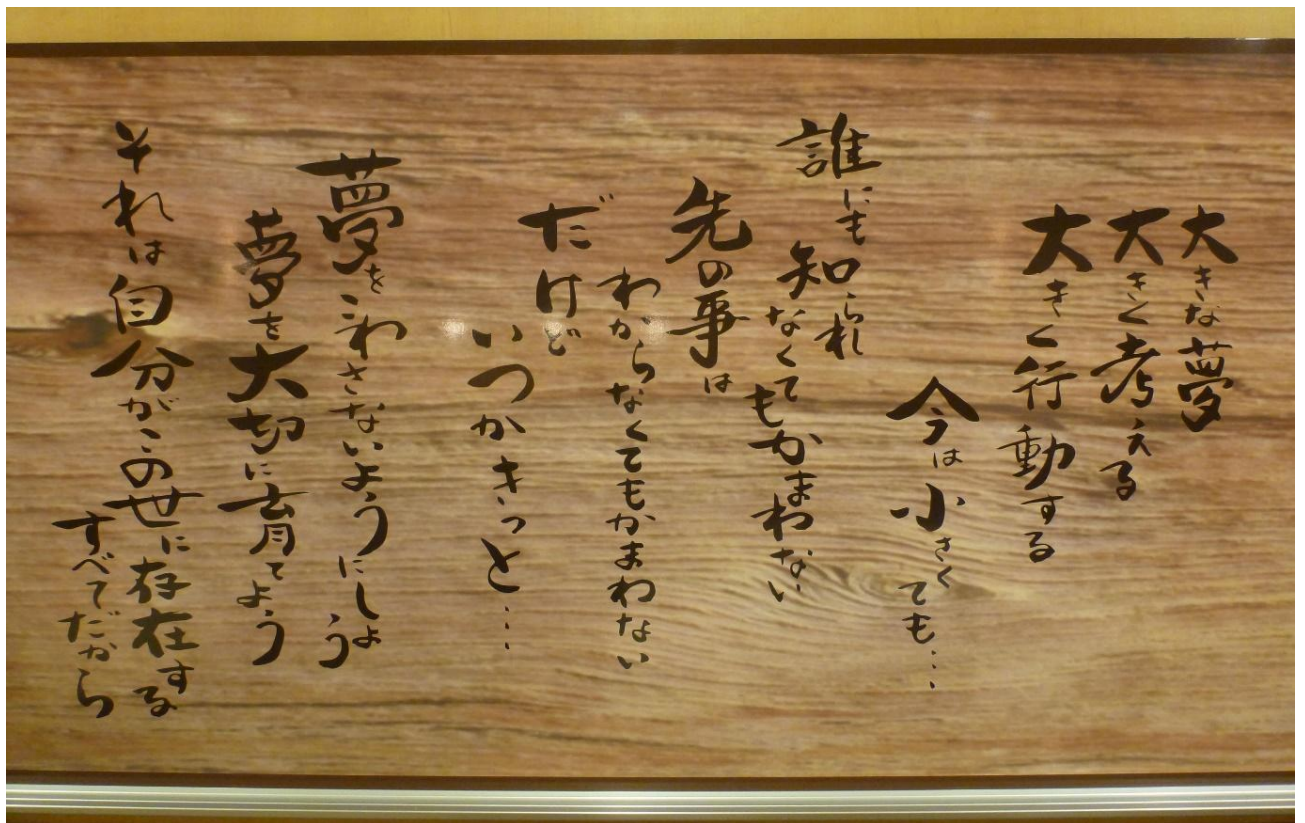
図(表)H-13													
(西暦) 2018年	(西暦) 2019年												(西暦) 2020年
現元号(平成/通年)	平成				新元号?□□								新元号?□□(通年)
----	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	----
・3回目の四国へんろ(済) ・長崎遊学 Zigzag 紀行(済)			この4か月は何をするのか。								この2か月は何をするのか。		
備考						誕生月							
希望する計画	この年の希望プランは、「西国観音霊場順礼」「もう一度の四国」「天草八十八所霊場巡礼」のいずれかです。												
この歳はどのように展開すればよいのか。													

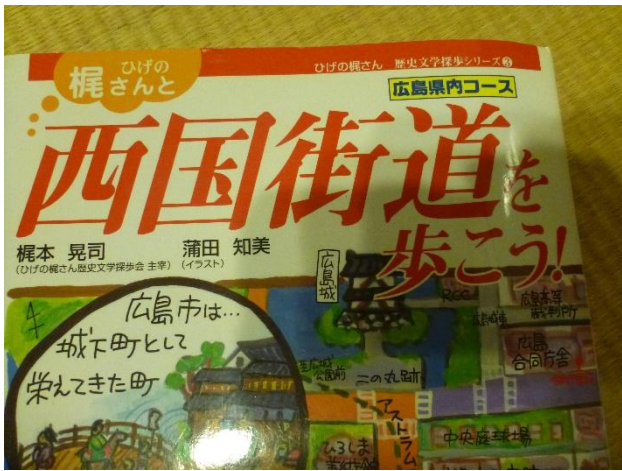
【 補完-11 】ピックアップ写真



種字 (梵字)

天照大神宮 講





【 最 後 に 】

1. 「大香ブランド老魂サブタイトル」を振り返って

スタート前に同タイトルを『ちょうちんフットライト (footlights) 大作戦』に設定し、10/7(日)～11/11(日)延べ 36 日間に歩行距離合計 1,144km(910+234)を貫(完)歩して来ました。

「フットライト (footlights)」は「ヘッドライト (headlight)」とは真逆の照らし方です。一般的な娑婆の人間は、吾がごとは棚に上げるという、つまり、プライドが高く傲慢さからヘッドライト照射を欲しがる悪弊が沁み付いています。組織人であれば、上位職を目指して、同僚を蹴落としてまでも、誰彼構わずにそれらを踏み台にしてまでも出世を目論見ます。他方、フットライトは我が身を振り返る、脚下照顧きゃっかしょうこの具象です。

さて、フリー百科事典『ウィキペディア』によると、「世界三大宗教とは、仏教、キリスト教、イスラム教の三つを指すと云われる。しかし、信者数は、キリスト教が 20 億人、イスラム教が 16 億人、仏教が 4 億人程度とされる。ヒンドゥー教の方が 11 億人程度なので仏教よりも多く、信者数だけならキリスト教、イスラム教、そしてヒンドゥー教が世界三大宗教になるはずである。ヒンドゥー教が三大宗教に入らない理由として、民族宗教であることが考えられる。」とのこと。日本人は無宗教者が多いと云われるが、今回の私は「キリスト教」に触れる旅でした。これまでの私の足元の考え方を鑑みれば、古来の神社神道や仏教世界で培って来た知識が基礎にあったはず。強く意識せずともそれらが基層に沁みていることは間違いありません。しかし、この度のスルーハイクを通して、キリスト教に触れるにつけ、未開の新しい世界を知った気になりました。

日常生活の中であらためて吾が足元を振り返って、次のようなことが浮かびました。人間それぞれが傲慢な態度で争う中にも多様性・重層性が叫ばれています。所詮は優劣比較対象外の人間関係です。多様な価値観を相互尊重するという考え方は、現行憲法を持ち出すまでもなく最も基本的な価値観です、当然のことです。個性の尊重とも言いますが、元を辿れば「私とあなたは違う」という大前提の考え方です。したがって、違うものを同じものには出来ない、同じにはなり得ないという当たり前の考え方が絶対に必要です。ところが、違う相手を自分の範疇に取込みたい、違う相手を同属化したいとする強引な感情が湧くものだから戦い・争いが生じるのです。

すなわち、「独り立ち＝独立独歩・独立自尊」を絶対視する生き方を模索する必要があります。頭から協力とか、連帯とか、絆とかの美名を持って語る軽薄な野人の弁に流され安いが、そのように唱えるその本心は、自分を誇示し、他人の自由を束縛する「統制・命令・強制する」権力の行使にあります。今様の言葉を使えば、「同調圧力」の仕掛け人に成り下がります。「協力・連帯・絆」は、「独り立ち、個性、違い」を 100%相互容認する社会にあってこそ、結果として感じる「情緒」であります。「協力・連帯・絆」というのは表層的で騙し合いのネットみtainなものです。そのような美名に私は安々と乗りません。

2. キリスト教に触れて道中浮かんだこと

その 1； 吾が国におけるキリスト教 (クリシタン) は、過酷な迫害・弾圧、非人道的な極めて惨むご

い仕打ちを受けた歴史に鑑みて、とても同情したくなるが、他方で逆に、他宗からキリシタンへの強制的な改宗や寺社破壊を行った、キリシタンが仏教や神道に迫害を加えたのです、それも史実ということです。被害者が加害者へ、加害者が被害者へ、どっちもどっちなのです。

大名として日本で初めて洗礼を受けた大村純忠すみただ（現長崎県・大村藩主）は、狂信的な信者で、外国人宣教師の言いなりになって、大村家歴代の位牌と前領主であり養父の大村純前の位牌をゴミと一緒に焼却させたり、大村家の菩提寺・金山寺や領内の寺社を徹底的に破壊した。キリスト教への改宗を強制し、これを拒否する神職・僧侶・領民などに迫害や弾圧を加え、大量虐殺や領外追放を行ったそうです。また、高槻藩主たかつきであったキリシタン高山右近は、領民の葬儀に自ら棺を担ぐなど人格の平等を示し、封建的特権主義を放棄せしめる開明的な行動をとった。また、模範的な日常の態度や勇敢さは秀吉から一時期褒め称えられた。他方で、仏僧に対してキリシタンの説教を聴くように強制し、従わない者は領内から追放し、寺社は焼き払うか、教会に変えた、というのです。

領主がキリシタンとなったその他の地域でも、同様のことが短期間のうちに徹底して強制した事例が数多くあった、そうです。

——キリシタンと雖もいい加減なものです。キリスト教の教義そのものに問題があるのではなく、一神教に対する狂信性、一神教原理主義の側面がそうさせるのだろうか。人類愛・隣人愛・博愛主義・無償の愛、社会慈善活動などを唱える一方で、他を破壊することに正当性を主張するなどは真逆の対応です。キリストの神様が創造された社会なのに戦争や悪事が横行します。まあ、世界中の英邁な学者が全部集まって、どんな高度な理論を展開しても解決策は永遠に絶対に見付かりません。

生身の人間は、ジレンマと葛藤の中で生きています。昨今の社会は、殺人事件や傷害事件が頻発しています、通り魔事件といえども大半が人間関係の中での怨嗟や憎悪から来るものです。人間関係の中で、喧嘩を売って、争いを仕掛けて、他人を駆逐して歩むのか、・・・そのような状況には、必ず、勝者と敗者を決定しなければならないという魔力が厳命されます。だから、争い戦うという事件が発生するのです。道徳や倫理観を説いたからと言って、遺恨や敵意が雲散霧消する人間界ではない、のです。

その2；通り魔は別として、殺人や傷害にも、本来は必ずや、両方ともに50対50の割合で原因を各々が抱えるものだと思っています。人間対人間の中で、接近・接触があれば、何にがしかの摩擦・問題が発生します。例えば、AさんがBさんに対して“ありがとう”と御礼を言ったとします、ところが、Bさんは“言葉はいいが、その態度が気に食わない”と言って、Aさんに暴力を奮ったとします。AさんがBさんに接近しアクションを起こし、Bさんはそれに応えたということが絶対唯一最大の原因です。AさんもBさんも、その場を共有せず、何もアクションを起こさなければいざこざは生じないのです。一方、Bさんの、態度が気に食わないという正当性を主張する権利——相手の人間性をどのように評価するのは受け手の自由勝手——もあります。他方、Aさんの態度は、Cさんには通じた、歓迎されたかもしれないが、Bさんには逆効果だったわけです。

世の中にこんなことは山ほどあります。対等な人間相互間の事象発生には、対等な権利と対等な責任（責務）、さらには、事象・事態の結果をも50対50で負担する——結果責任も対等という基本的な考え方を私は持っています。そんなことはない、というならば、人間差別を最初から認めることになり、権利・責任・結果において、A対B=30対70でいいのか、となります。

ところが、一般的には、結果責任はその結果事象の程度・過失割合に依拠すると一般的には言うでしょう。私は違います。あくまでも人間関係の対等・平等は、結果責任の履行においても対等でなけ

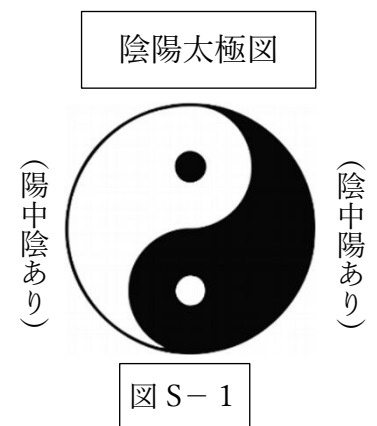
ればならないと考えます。結果責任は違うというから、勝ち負けの、最低でも 51 対 49 の決着を付けなければならないこととなり、^{たたかい・あらそい} 戦争 が必然的に生ずるのです。

ここで浮かぶのが、よく知れ渡っている「喧嘩両成敗」です。中世および近世は日本の法原則の 1 つ、喧嘩に際してその理非を問わず、双方とも等しく処罰するという原則を謂い、1445（文安 2）年の文献に見られるという。現時の感覚で言えば、「平衡的相殺主義」ということでしょう。おそらく明治の新しい西欧感覚で古来の考え方が消されたのではないのでしょうか。吾が国憲法に明記して貰いたいものです。絶対『唯一』の無限・完全無欠の『永遠性』『超越性』『内在性』をあまね 遍くお持ちの創造主イエス・キリストは、なぜ、全事象の結果責任の平等性を人間に書き込まなかったのか、きつと寝ぼけていたのでしょうか。性善説とか性悪説とかいうが、どんな場面でも、どんな人間関係にあっても、どんな切り口をとっても偏らず、真理はその比較割合は 50 対 50 だと思います。

以上は、刑法論云々ではなく、私の単なる感覚上のアベコベな、トンチンカンな問題意識です。

その 3；そんなことをあれこれ思う時、図 S-1 のとおりの陰陽相対（待）性原理「陰陽太極図」が浮かびます。極簡単に説明すると、世の中の諸々の現象は、陰陽二元で単純化しつつも、その裏側に融合・混沌の世界を内包しています。逆に難解な宇宙は二元に単純・明瞭化出来ます。世の中の全ての事象は陰陽の絡み合い・闘ぎあいあひまで動いているという考え方です。例えば、対立点が表面化したとすれば、何時まで経っても、どんなに議論を尽くしても、「陽中陰あり・陰中陽あり」で、優劣・勝敗の決着は付かないということを訓えます。

人間関係にもそのまま当て嵌まります、考え方・意見・主張はまったく同じになることはない、優劣に決着は付かないのです。ものごと・人間関係には、必ず押し合いの対立が生じます。そこで『妥協』で疑似決着を図るのです。しかし、これは一方には必ず『屈服・服従・降参』が残存します。それらは自尊心の屈辱になります。それは恨みへと昇華します。恨みは何時か仕返ししてやろうとなります。それが世の中のあらゆる事件の原因です。いやいや、人間には、『調和』という崇高な対応があるではないか、となります、しかし、これは“美名”であって、これとても、必ず一方に無念さが残滓となります。残滓は日常の人間関係の中で蓄積されて必ずや反目が露見・流露します。物理の世界に、二つの物の接触に係り作用・反作用の法則（運動の第三法則）があります。反作用は、作用と同等の力で反対の方向の力、つまり、反発する作用です。人間は物体としての身体の外に、見えないが他人を拘束も出来る精神が存在します。精神は見えないというが、存在しない神様の技ではありません。精神（心）は脳神経回路、つまり、分子-原子-素粒子の物質構造を以って作り出されているものです。よって、作用・反作用は当然の現象を伴います。心身一如となつて一つのものを形成しているから、接触すれば、つまり、場を共有し、会話を始めれば、必ず作用・反作用（反発）が生じます。優劣は摩擦抵抗——人間界では、世話をしているとか世話を貰ったとか、地位が高いとか低いとか、使用者とか労働者とか、諸々のしがらみ（要素）が絡みついて、押し合いあひま押し合いの内に、有耶無耶の内に一時休戦となるのです。坂道の大玉が小さな石ころで止まっている様なもので、あくまでも、一時の休戦です。それは必ず動き出します。優劣の決着が永久に付かないのが宇宙の法則なのに、決着を付けようともがき合つて双方が苦しむのです。



どちらかに偏れば、歪が生ずるなり、歪は反発を生むなり、反発はいつか仕返しが下るなり、仕返しは天罰成り。宇宙の森羅万象、「陽中陰あり・陰中陽あり」です。

その4；

****以上のような言説を振り返ると、私は「人間不信」で満杯になっています。

****人間、平民から総理大臣まで「言葉はきれい、心は汚れて真っ黒気」なのです。

****人間大人たるは、独立自尊の有りや否やです、群れに媚びれば自滅の道です。

元凶は「生老病死」、生きていること自体が苦しみだからです、「生きていること＝しがらみと腐れ縁でがんじがらめ」の等式で生きている人間です。須らく「人間不信」の私は、ピーンと来た胡散臭い雰囲気からは逃げます、対抗して活路が開ける道理はありません。

- ・ 一人でいる時は、夢と希望の自己満足の世界を夢想し、見知らぬ世界を空想します。
- ・ 人を求めたくなったら、心底から対話出来る時空を求めて！ それは、一期一会と対等互敬（恵）を実感出来る『旅』に出ることです。

(完)

2018 (平成 30) 年 12 月 31 日 (月)

山形県山形市上桜田

☎ 080-3338-3738

✉ dreamyok@hotmail.co.jp

